

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|---------------|-------------------------------|--------------------------------------|---|--|--|---|---|---|
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| | | | | | | ◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項 | | | |
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| | | | | | | 一定の地理的空間において教育、文化、政治、経済、環境等の様々な要素が絡み合った複合的システムとして捉えられた「地域」について、その国内外的具体例が持っている特性と課題を解明し、実践的な活動を通して地域社会の発展や文化の創造に貢献することに高い関心を持ち、そのような貢献に向けて積極的に関わり意欲を有する。 | 外国語、調査・データ分析、行政運営等に関する基礎的実践的なスキルを有し、適切な情報収集・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を用いてチームワークの中でリーダーシップを発揮しつつ課題の解決に取り組むことができる。 | 【地域分析系】 地理学、社会学、生活経営学、情報技術、統計学等の専門知識を有し、社会調査法や統計分析を活用して地域社会や住民生活の諸課題を解明できる。 【公共政策系】 法学、政治学、経済学、経営学等の専門知識を有し、地域政策の立案・実行や地域社会あるいは企業組織等の合理的・効果的運営に寄与できる基礎的能力を有する。 【環境マネジメント系】 環境マネジメント、生物学、環境科学等の専門知識を有し、様々な環境問題を理解する能力を持つ。 【生涯学習系】 社会教育学、博物館学、芸術学、心理学、生理学、運動学等の専門知識を有し、市民の生涯学習の企画・運営および支援に寄与することができる。 【国際文化系】 英米文化、ドイツ文化、フランス文化、中国文化等の専門知識を有し、複眼的視点から多様な価値観に根差した地域の文化的特性を理解することができる。 【言語コミュニケーション系】 英語、中国語を中心に言語やコミュニケーション等の専門知識を有し、英語、中国語の実践的運用能力を用いて、各地域の特性の解明や多文化共生社会に寄与することができる。 | 多様な地域社会や文化のあり方について理解し、答えの得ない課題にも専門的知識・能力を生かして取り組むことができる。また、それを通じて地域間・文化間の共生や自治の実現等に貢献できる。 |
| 28201 | 地域科学基礎科目 | 生活保障論 | 高田 洋子 | 私たちの生活を相互にあるいは社会的に支えるための理念と政策的な課題を検討する。 | 現代日本社会の生活の特徴と、生活保障に関わる基本的な概念や理念また政策課題を理解できる。持続的な社会を構想する上で私達に課せられた基本的課題群を理解できる。 | ◎ | | ◎ | ○ |
| 28203 | 地域科学基礎科目 | 地域における生涯学習 | 澁谷 政子、岸俊行、戎利光、羽田野慶子、東村 純子 | 市民の学習を支える地域の生涯学習のあり方について、基礎理論および博物館学、芸術学、健康・スポーツ科学、心理学の各論について幅広い知識を学ぶ。 | 複数の教員による多様な分野の講義から、地域の生涯学習に関わる施設やそこの事業、学習支援の状況を網羅的に把握する。 | ◎ | | ◎ | |
| 28204 | 地域科学基礎科目 | 国際文化交流論 | 今井 祐子 | グローバル化が叫ばれる現代は、世界各地から人や物や情報がどんどん入り、さまざまな分野で国際交流が盛んになっています。文化の領域でも、外国文化を紹介するイベントが日本各地で実施され、日本文化の紹介も世界各地で行われています。そうした現状を踏まえてこの授業では、近現代を中心に、各国の文化交流活動および外国人と日本文化の関係の軌跡を概観しながら、国際的な視野から見た日本文化のあり方を考えることのできる人材を育成する。 | ・近現代を中心に、国際文化交流の歴史や現状に関する知識を習得した上で、国際的な視野から見た日本文化のあり方を考える視点を養う。 ・自分が住む身近な地域のソフト・パワーを発見し、それを世界に発信・アピールしたり、その普及を通じて社会をより良くするための思考力を養う。 ※「リアクション・ペーパー」には、当日の授業で新しく学んだことの要点、講義内容に関する疑問、質問等を書いてもらいます。 | ◎ | | ◎ | ◎ |
| 28205 | 地域科学基礎科目 | 言語コミュニケーション論 | 館 清隆 | コミュニケーションがいかんして成立するかを理解するために、現在の言語理論の枠組みを理解する。また、その枠組みを利用して現代英語および日本語の音声・統語・意味に関して分析を行う | 隔週ごとに英文を5ページ程度を予習しながらレポートを作成し提出することが必要であり、その次の週には出された言語分析の課題をこなすことが必要となる。 | ◎ | | ○ | |
| 28207 | 地域科学基礎科目 | 情報技術基礎 | 井上 博行 | 情報処理基礎で学んだ内容を発展させ、地域科学課程で必要となる情報処理技術を学ぶ。具体的には、表計算ソフトを用いた情報処理、様々なメディアファイルを用いたプレゼンテーション方法、情報発信を目的としたホームページを中心としたインターネットの技術について学ぶ。 | (1) 地域科学課程で必要となる表計算ソフトを用いた情報処理技術(Excelを用いたデータ処理や簡単な統計処理手法)を身につけ、基本的なデータの処理を行える。 (2) 様々な情報メディア(画像や動画ファイルなど)を用いたプレゼンテーション技術を身につける(PowerPointの利用)。 (3) 情報発信を目的し、ホームページを中心としたインターネットの技術について身につける。 | | (1)◎ (2)◎ (3)○ | (1)○ (2)○ (3)○ | |
| 28211 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 地域分析 | 伊藤 勇、原敏博、井上 博行、松本 智恵子、高田 洋子 | 住民生活を中心とした地域の諸課題をテーマとしたワークショップ形式の授業を通して、地域分析系の専門分野や調査研究法の基礎を体験的に学ぶ。 | 地域分析系の専門分野や調査研究法の基礎が分かる。グループで協同して学習・調査研究・発表ができるようになる。 | ◎ | ◎ | | △ |
| 28217 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 地域分析 | 伊藤 勇、原敏博、井上 博行、松本 智恵子、高田 洋子 | 住民生活を中心とした地域の諸課題をテーマとしたワークショップ形式の授業を通して、地域分析系の専門分野や調査研究法の基礎を体験的に学ぶ。 | 地域分析系の専門分野や調査研究法の基礎が分かる。グループで協同して学習・調査研究・発表ができるようになる。 | ◎ | ◎ | | △ |
| 28212 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 公共政策 | 横井 正信、木村 亮、清水泰幸、生駒 俊英、岡崎 英一、飯田 健志 | 現在の地域社会に関連する特定のテーマを設定し、学内での学習だけではなく学外での調査・分析活動を複数の学生が協力しながら行うことにより、多岐にわたる地域社会の特性と課題を理解するとともに、各学生の個別の研究テーマをより深く分析できる能力を身につけることを目標とする。 | 地域社会を分析する上での必要な情報源について理解するとともに、実際に地方における様々な問題を調べながら、行政資料や行政文書について情報公開請求を調べ、その経験を学生が共有することを目標とする。 | ◎ | ◎ | △ | ○ |
| 28218 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 公共政策 | 生駒 俊英、木村 亮、清水泰幸、横井 正信、岡崎 英一、飯田 健志 | 現在の地域社会に関連する特定のテーマを設定し、学内での学習だけではなく学外での調査・分析活動を複数の学生が協力しながら行うことにより、多岐にわたる地域社会の特性と課題を理解するとともに、各学生の個別の研究テーマをより深く分析できる能力を身につけることを目標とする。 | 地域社会を分析する上での必要な情報源について理解するとともに、実際に地方における様々な問題を調べながら、行政資料や行政文書について情報公開請求を調べ、その経験を学生が共有することを目標とする。 | ◎ | ◎ | △ | ○ |
| 28213 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 環境マネジメント | 保科 英人、三浦 麻 | 環境問題に関する知識や、調査方法のノウハウをマスターする 地域環境における観察力 | グループワークによる協調性とプレゼンテーション力を高める。 環境を見る目を養う。 | | ○ | ◎ | |
| 28219 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 環境マネジメント | 三浦 麻、保科 英人 | 環境問題に関する知識や、調査方法のノウハウをマスターする 地域環境における観察力 | グループワークによる協調性とプレゼンテーション力を高める。 環境を見る目を養う。 | | ○ | ◎ | |
| 28214 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 生涯学習 | 澁谷 政子、戎利光、羽田野慶子、東村 純子 | 生涯学習の現状と課題について理解を深める。 | 生涯学習への理解を深め、各分野のテーマに合ったグループ研究をおこなう。この授業はアクティブ・ラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力、⑤リーダーシップ、⑥民主的に合意形成できる資質を養うことを求めている。 | ○ | ◎ | ◎ | |
| 28220 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 生涯学習 | 戎 利光、澁谷政子、羽田野慶子、東村 純子 | 生涯学習の県内拠点施設への訪問とグループ学習を通じて、地域における生涯学習の現状と課題について理解を深める。 | 生涯学習への理解を深め、各分野のテーマに合ったグループ研究をおこなう。この授業はアクティブ・ラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力、⑤リーダーシップ、⑥民主的に合意形成できる資質を養うことを求めている。 | ○ | ◎ | ◎ | |
| 28215 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 国際文化 | 今井 祐子、木原 泰紀、松田和之、田村 容子、磯崎 康太郎 | ・国際文化という視点から、地域の諸課題に関する問題を発見できる人材を育成する。 ・地域社会における様々な活動分野で求められる協働での課題探求・問題解決能力、情報収集・分析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を備えた人材を育成する。 | 以下の3点に留意しながら、参加者の互いの知識と経験を共有しながら議論を進め、主体的に問題を発見する。 ・新しい課題にひるまず飛び込む柔軟性 ・チームで作業を行う協調性 ・最後までやり遂げるという強い意志 ・図表や写真などを効果的に使って、個人的でかつ説得力のあるプレゼンテーション能力を身につける。 | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 28221 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 国際文化 | 松田 和之、木原 泰紀、今井祐子、田村 容子、磯崎 康太郎 | ・国際文化という視点から、地域の諸課題に対する問題を発見できる人材を育成する。 ・地域社会における様々な活動分野で求められる協働での課題探求・問題解決能力、情報収集・分析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を備えた人材を育成する。 | 以下の3点に留意しながら、参加者の互いの知識と経験を共有しながら議論を進め、主体的に問題を発見する。 ・新しい課題にひるまず飛び込む柔軟性 ・チームで作業を行う協調性 ・最後までやり遂げるという強い意志 ・図表や写真などを効果的に使って、個人的でかつ説得力のあるプレゼンテーション能力を身につける。 | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 28216 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 言語コミュニケーション | 皆島 博、館清隆、永井 崇弘、倪 祥妍、Charles Jannuzzi | 言語および言語コミュニケーションに関連する地域の諸課題に対する問題発見的なアプローチを行います。 | グループワークを通じて、他者と協働して地域に関連した言語や言語コミュニケーション領域において、課題を発見し、その課題の解決を行うという一連のプロジェクトを完成させるスキルを身につける。 | △ | ◎ | ○ | ◎ |
| 28222 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅡ(基礎): 言語コミュニケーション | 永井 崇弘、館清隆、皆島博、倪 祥妍、Charles Jannuzzi | 言語および言語コミュニケーションに関連する地域の諸課題に対する問題発見的なアプローチを行います。 | グループワークを通じて、他者と協働して地域に関連した言語や言語コミュニケーション領域において、課題を発見し、その課題の解決を行うという一連のプロジェクトを完成させるスキルを身につける。 | △ | ◎ | ○ | ◎ |
| 28223 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用A): 地域分析 | 伊藤 勇、原敏博、井上 博行、松本 智恵子、高田 洋子 | 目的: 地域の諸課題についてみずから実地調査を試み、社会調査を実際に活用する能力の育成をはかる。 概要: 個人またはグループで、地域の諸課題に関わる調査テーマを設定し、量的調査法または質的調査法を用いて、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程を一通り体験的に学習する。 | 地域の諸課題についてみずから実地調査を試み、社会調査を実際に活用する能力の育成をはかる。 本科目は、後期開講の「地域課題ワークショップⅢ(応用B): 地域分析」と合わせて受講すること。 | ◎ | ◎ | ○ | |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|---------------|--------------------------------|--|--|--|--|-------------|--------------------------|-------------------------------|
| | | | | | | ◎=DP達成のために特に重要な事項、○=DP達成のために重要な事項、△=DP達成のために望ましい事項 | | | |
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| 28224 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用A): 公共政策 | 生駒 俊英, 木村 亮, 清水 泰幸, 横井 正信, 岡崎 英一, 飯田 健志 | 特定の課題について参加者が自主的に議論や作業を重ね、知識や経験を共有すると共に情報収集力や分析力を養い、さらに社会科学に関する専門知識の学習と連動したより本格的な調査研究を行うことを目標とする。 | 「ワークショップⅠ」におけるグループによる調査活動の基礎学習、「ワークショップⅡ」における調査ツールとしての情報公開請求の体験学習を踏まえて、地域社会に関わる諸問題あるいはより広い社会経済的な諸問題の中から各学生グループが選んだ特定の課題について、他の専門科目の学習とも連動させつつ調査研究を行い、その成果を前期終了時に発表する。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 28225 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用A): 環境マネジメント | 保科 英人, 三浦 麻 | 環境問題に関する知識や、調査方法のノウハウをマスターする | 自分たちが選んだテーマを題材として、専門性を高める | | ○ | ◎ | |
| 28226 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用A): 生涯学習 | 戎 利光, 羽田 野 慶子, 渡谷 政子, 東村 純子 | 地域の生涯学習に関する実習をおこない、市民の学習や文化活動を支援するための企画力・実践力を身につける | 子どもや地域住民のための活動・学習を学生が自ら企画・実践することが求められる。主体的に参加し、責任を持って実践に携わることができる人のみ履修可能です。この授業はアクティブ・ラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力、⑤リーダーシップ、⑥民主的に合意形成できる資質を養うことを求めている。 | | ◎ | ○ | ○ |
| 28227 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用A): 国際文化 | 今井 祐子, 木原 泰紀, 松田 和之, 田村 容子, 磯崎 康太郎 | 次年度に予定されている「福井国際フェスティバル」への参加に向けて、国際色豊かな行事への参加、県民の多文化理解の促進、外国人との共生に向けた地域づくりに関する推進に関する企画力を養う。 | 学生は、さまざまな意見を考慮しながら、来場者に喜んでもらえるような催しや国際文化に関連した展示内容を考え、作成できるようにする。 | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 28228 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用A): 言語コミュニケーション | 永井 崇弘, Charles Jannuzzi, 館 清隆, 皆島 博, 祝 祥妍 | 次年度に予定されている「福井国際フェスティバル」への参加に向けて、国際色豊かな行事への参加、県民の多文化理解の促進、外国人との共生に向けた地域づくりに関する推進に関する企画力を養う。ディプロマ・ポリシー(地域科学課程)の1・2・3、カリキュラム・ポリシー(地域科学課程)の1・2・4・5に関連する。 | さまざまな意見を考慮しながら、来場者に喜んでもらえるような催しや展示内容を考える。 | ◎ | ○ | ◎ | |
| 28229 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用B): 地域分析 | 伊藤 勇, 原 敏博, 井上 博行, 松本 智恵子, 高田 洋子 | 目的: 地域の諸課題についてみずから実地調査を試み、社会調査を実際に活用する能力の育成をはかる。 概要: 個人またはグループで、地域の諸課題に関する調査テーマを設定し、量的調査法または質的調査法を用いて、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程を一通り体験的に学習する。 | 地域の諸課題についてみずから実地調査を試み、社会調査を実際に活用する能力の基礎を実地に学ぶ。 本科目は、前期開講の「地域課題ワークショップⅢ(応用A): 地域分析」と合わせて受講すること。 | ◎ | ◎ | ○ | |
| 28230 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用B): 公共政策 | 生駒 俊英, 木村 亮, 清水 泰幸, 横井 正信, 岡崎 英一, 飯田 健志 | 特定の課題について参加者が自主的に議論や作業を重ね、知識や経験を共有すると共に情報収集力や分析力を養い、さらに社会科学に関する専門知識の学習と連動したより本格的な調査研究を行うことを目標とする。 | 「ワークショップⅠ」におけるグループによる調査活動の基礎学習、「ワークショップⅡ」における調査ツールとしての情報公開請求の体験学習を踏まえて、地域社会に関わる諸問題あるいはより広い社会経済的な諸問題の中から各学生グループが選んだ特定の課題について、他の専門科目の学習とも連動させつつ調査研究を行い、その成果を共同論文にまとめる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 28231 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用B): 環境マネジメント | 三浦 麻, 保科 英人 | 環境問題に関する知識や、調査方法のノウハウをマスターする | 自分たちが選んだテーマを題材として、専門性を高める | | ○ | ◎ | |
| 28232 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用B): 生涯学習 | 渡谷 政子, 戎 利光, 羽田 野 慶子, 東村 純子 | 地域の生涯学習に関する実習をおこない、市民の学習や文化活動を支援するための企画力・実践力を身につける | 子どもや地域住民のための活動・学習を学生が自ら企画・実践することが求められる。主体的に参加し、責任を持って実践に携わることができる人のみ履修可能です。この授業はアクティブ・ラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力、⑤リーダーシップ、⑥民主的に合意形成できる資質を養うことを求めている。 | | ◎ | ○ | ○ |
| 28233 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用B): 国際文化 | 松田 和之, 木原 泰紀, 今井 祐子, 田村 容子, 磯崎 康太郎 | 「福井国際フェスティバル」への参加を通して、国際色豊かな行事への参加、県民の多文化理解の促進、外国人との共生に向けた地域づくりに関する推進に関する様々な業務を実地で学ぶ。 | 学生は、国際交流の現場で、大学の授業で習得したコミュニケーション能力、異文化理解の知識を活用できるようにする。 実習中は、積極的に仕事に取り組み、信頼される仕事をしようという心がけ。また、挨拶、身なり、言葉遣い、時間厳守、守秘義務などに配慮し、社会に出て活動する人間としてふさわしい行動を身につける。 | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 28234 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅢ(応用B): 言語コミュニケーション | 皆島 博, Charles Jannuzzi, 館 清隆, 永井 崇弘, 祝 祥妍 | 本年度に予定されている「福井国際フェスティバル」への参加に向けて、国際色豊かな行事への参加、県民の多文化理解の促進、外国人との共生に向けた地域づくりに関する推進に関する企画力を養う。 | 企画運営委員として、さまざまな意見を考慮しながら、来場者に喜んでもらえるような催しや展示内容を考える。 | | ◎ | ○ | △ |
| 28235 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合A): 地域分析 | 伊藤 勇, 原 敏博, 井上 博行, 松本 智恵子 | 地域課題に関わる特定のテーマを設定し、個人およびグループで調査研究に取り組み、卒業研究へとつなげる。 | 卒業研究で取り組むテーマを見つける。卒業研究の遂行に必要な知識およびリテラシーを身につける。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| 28236 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合A): 公共政策 | 生駒 俊英, 木村 亮, 清水 泰幸, 横井 正信, 岡崎 英一, 飯田 健志 | 特定の課題について参加者が自主的に議論や作業を重ね、知識や経験を共有すると共に情報収集力や分析力を養い、さらに社会科学に関する専門知識の学習と連動したより本格的な調査研究を行うことを目標とする。 | 「地域課題ワークショップⅠ」におけるグループによる調査活動の基礎学習、「地域課題ワークショップⅡ」における調査ツールとしての情報公開請求の体験学習、「地域課題ワークショップⅢ」における専門知識の学習と連動したより本格的な調査研究と共同論文の作成等の成果を踏まえて、地域科学課程での学習の集大成として、卒業論文作成の前提となる能力と技術を4年次生による卒業研究に関する発表等も参考にしつつ修得する。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ |
| 28237 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合A): 環境マネジメント | 保科 英人, 三浦 麻 | 環境問題に関する知識や、調査方法のノウハウをマスターする | 自分たちが選んだテーマを題材として、専門性を高める | | ○ | ◎ | |
| 28238 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合A): 生涯学習 | 戎 利光, 岸 俊行, 梅澤 章, 渡谷 政子, 羽田 野 慶子, 田中 美更, 東村 純子 | 受講生の関心に基づき地域の諸課題に関するテーマをそれぞれ定め、個人またはグループで調査・実験・研究をすすめ、卒業研究へつなげる。 | 卒業研究のテーマを定め、研究を進めるための基礎文献・資料等を収集・読解・分析しながら、テーマに対する理解を深め、問題の所在を明確化させる。この授業はアクティブ・ラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力を養うことを求めている。 | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| 28239 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合A): 国際文化 | 松田 和之, 木原 泰紀, 今井 祐子, 田村 容子, 磯崎 康太郎 | この科目は一連の地域課題ワークショップ科目の挿尾を飾るものであり、「地域課題ワークショップⅠ～Ⅲ」で培われた学生たちの社会力基礎力(コミュニケーション能力、情報収集能力、課題解決力、プレゼンテーション能力等)にさらなる磨きをかけることがその目標のひとつとして挙げられるが、そうしたテクニカルな技能の鍛錬もさることながら、この授業の第一義的な目標は、大学生生活の総決算ともいえる卒業研究を、学生一人ひとりに即して的確にサポートすることにある。 | 学生一人ひとりが、一連の地域課題ワークショップ科目を受講した経験とその過程で身に付けた汎用的能力を有効に活用し、大学での勉学を通じて得られた知識や能力を満足のゆく卒業論文に結実させる。 | | ○ | ◎ | ○ |
| 28240 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合A): 言語コミュニケーション | 館 清隆, Charles Jannuzzi, 皆島 博, 永井 崇弘, 祝 祥妍 | この授業では、受講者の関心に基づき担当者ごとのグループに分かれて、受講者が卒業論文執筆のための課題(論題)設定、資料調査、外国語によるものを含む資料の読解・分析を行い、それに基づく成果を論理的な文章で表現したり、口頭発表したりできるようにする。 | 各回に自律的に課題設定を行う。これまでの学習成果に基づく調査・分析力の向上させる。発表時のレジュメ作成と口頭発表ができる。 | ◎ | ○ | ○ | |
| 28241 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合B): 地域分析 | 高田 洋子, 伊藤 勇, 井上 博行, 原 敏博, 松本 智恵子 | 地域課題に関わる特定のテーマを設定し、個人およびグループで調査研究に取り組み、卒業研究へとつなげる。 | 卒業研究で取り組むテーマを見つける。卒業研究の遂行に必要な知識およびリテラシーを身につける。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|---------------|--------------------------------|--------------------------------------|---|--|--|----------------------|--------------------------|-------------------------------|
| | | | | | | ◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項 | | | |
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| 28242 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合B): 公共政策 | 生駒 俊英 木村 亮 清水 泰幸 横井 正信 岡崎 英一 飯田 健志 | 特定の課題について参加者が自主的に議論や作業を重ね、知識や経験を共有すると共に情報収集力や分析力を養い、さらに社会科学に関する専門知識の学習と運動したより本格的な調査研究を行うことを通じて、卒業論文を執筆する能力を身につけることを目標とする。 | 「地域課題ワークショップⅠ」におけるグループによる調査活動の基礎学習、「地域課題ワークショップⅡ」における調査ツールとしての情報公開請求の体験学習、「地域課題ワークショップⅢ」における専門知識の学習と運動したより本格的な調査研究と共同論文の作成等の成果を踏まえて、地域科学課程での学習の集大成として、卒業研究を完成させる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ |
| 28243 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合B): 環境マネジメント | 三浦 麻保 科英人 | 主に文献調査を通じて、卒業研究に直結する知識や、調査方法のノウハウをマスターする。また、自らが得た知見や研究計画をプレゼンテーションを通じて、研究に必要なディスカッション能力を完成させる | 自分たちが選んだテーマを題材として、専門性を高める | | ○ | ◎ | |
| 28244 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合B): 生涯学習 | 濫谷 政子 成利光 梅澤 章 男 田中 美史 羽田野 慶子 | 受講生の関心に基づき地域の諸課題に関するテーマをそれぞれ定め、個人またはグループで調査・実験・研究をすすめ、卒業研究へつなげる。 | 卒業研究のテーマを定め、研究を進めるための基礎文献・資料等を収集・読解・分析しながら、テーマに対する理解を深め、問題の所在を明確化させる。 | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| 28245 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合B): 国際文化 | 今井 祐子 木原 泰紀 松田 和之 田村 容子 磯崎 康太郎 | この科目は一連の地域課題ワークショップ科目の総仕上げの科目であり、「地域課題ワークショップⅠ～Ⅲ」で培われた学生たちの社会人基礎力(コミュニケーション能力、情報収集能力、課題解決力、プレゼンテーション能力等)にさらなる磨きをかけることがその目標のひとつとして挙げられるが、そうしたテクニカルな技能の鍛錬もさることながら、この授業の第一義的な目標は、大学生活の総決算ともいえる卒業研究を、学生一人ひとりに即して的確にサポートすることにある。 | 学生一人ひとりが、一連の地域課題ワークショップ科目を受講した経験とその過程で身に付けた汎用的能力を有効に活用し、大学での勉学を通じて得られた知識や能力を満足のゆく卒業論文に結実させることが期待される。 | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 28246 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅣ(総合B): 言語コミュニケーション | 永井 崇 弘 Charles Jannuzzi 館清隆 皆島博 倪 祥妍 | この授業では、受講者の関心に基づき担当者ごとのグループに分かれて、受講者が卒業論文執筆のための課題(論題)設定、資料調査、外国語によるものを含む資料の読解・分析を行い、それに基づき成果を論理的な文章で表現したり、口頭発表したりできるようにする。 | 各回に自律的に課題設定を行う。これまでの学習成果に基づく調査・分析力の向上させる。発表時のレジュメ作成と口頭発表ができる。 | ◎ | ○ | ○ | |
| 28250 | 地域課題ワークショップ科目 | 地域課題ワークショップⅠ(入門) | 木原 泰紀 木村 亮 地域科学課程委員会 | ワークショップ(workshop)とは一般に、特定の課題について参加者が自主的に議論や作業を重ね、知識や経験を共有する方式の研修会・講習会を意味します。「地域課題ワークショップ」はこうしたワークショップ形式で行なわれる授業です。この授業では特に、皆さんに地域の諸課題に対して認識や関心を持ってもらい、チームワークを発揮して課題について情報収集や分析を行なう力、情報や発見を分かり易く表現し他人に伝える力を養ってほしいと考えています。 | まずは、課題の設定からプレゼンテーションに至る一連の作業をひと通り経験することです。皆さんは、4年間にわたるワークショップ型授業を通じて、課題探究能力や問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を身につけてゆくことになっていきますが、その礎がこの授業を通じて築かれることを期待しています。この授業では、①前に読み出す力として、プレゼンテーション能力とリーダーシップ、②考え抜く力として適切な情報収集能力と情報分析能力、③チームで働く力としてコミュニケーション能力さらに④民主的に合意形成できる資質の育成を目標としています。 | ◎ | ◎ | | ○ |
| 28260 | スキルアップ科目 | 実用英語Ⅰ | 皆島 博 | この授業では、将来、英語で仕事ができる素地を作るため、様々な実用英語の基礎を学びます。 | (1) ビジネス英語の基礎を学ぶ (2) 交渉の英語の基礎を学ぶ (3) 実務的な英語の基礎を身に付ける | | (1)○ (2)○ (3)○ | (1)○ (2)○ (3)○ | |
| 28264 | スキルアップ科目 | 実用英語Ⅰ | 館 清隆 | 様々な現実的な場面で要求される実用英語(読み・書き)のスタイルや表現形式に習熟する。 | 各週ごとに提示される場面で必要となる英文を準備することが必要である。また、自分の英文を基に担当教員に英語で説明をすることも必要となる。 | | ◎ | ○ | |
| 28261 | スキルアップ科目 | 実用英語Ⅱ | 館 清隆 | 大学生が普通に遭遇するような状況において用いられる語彙や熟語的言い回しを強化し、そのような場面において英語を聞いたり話したりする能力を養うことを主な目標とする。 | Each unit is divided into two lessons and includes vocabulary-building exercises in addition to the speaking and listening activities. There will be a program of tests and quizzes, and students will be expected to make use of the self-study exercises for each unit. | | ◎ | ○ | |
| 28265 | スキルアップ科目 | 実用英語Ⅱ | 館 清隆 | 口語的な英語表現を具体的な場面で使えるようになることを目標とする。 | 口語的な表現が、聞いて理解できるだけでなく、場面に応じて、自然に口に出るようになる。 | | ◎ | ○ | |
| 28262 | スキルアップ科目 | 実用英語Ⅲ | 館 清隆 | さまざまなテーマを基に自分の考えをまとめ、わかりやすい表現で自分の意見を書き表すことができるようになること。 | 身近なテーマを基に、学生同士が実際にコミュニケーションを図り、議論し、自分の英語で意見を書くことができるようになること。 | | ◎ | ○ | |
| 28266 | スキルアップ科目 | 実用英語Ⅲ | 木原 泰紀 | 平易な英文を用い、的確に、正確に自分の考えを表現することを目的とする。英文作成の基本的な書き方(パラグラフライティング)、文法の再確認、語彙の拡充等についても留意したい。 | パラグラフライティングの理解、そして英文レポートの提出と教員の添削と見直しというプロセスを通じての英文構成能力の向上、TOEICの試験結果の改善が目標である。 | | ○ | | |
| 28267 | スキルアップ科目 | 実用英語Ⅳ | 館 清隆 | 様々なトピックを用いてスピーキングスキルを伸ばすことを目標とする。 | 学生同士が、テーマに基づき、お互い英語でコミュニケーションをとることができるようになること。 | | ◎ | ○ | |
| 28270 | スキルアップ科目 | 社会調査入門 | 伊藤 勇 | 社会調査に関する入門的授業として、社会調査の意義、歴史、社会調査の種類、主要な方法と活用法、調査倫理などについて、基本的な知識と理解を得る。その上で、「世論調査」を素材として、調査の実際上の問題、調査結果の読み方、調査の社会的役割などを具体的に理解する。 | 社会調査に関する基本的な考え方や知識・技法を理解する。 | ○ | ◎ | △ | △ |
| 28271 | スキルアップ科目 | 統計入門 | 松本 智恵子 | 実践的課題解決力を身につけるために、基本的統計手法、調査法を理解する。 | 実践的課題解決力を身につけるために、実生活に必要な『統計的思考能力』を身に付ける。 | | ○ | ◎ | △ |
| 28272 | スキルアップ科目 | データ分析入門 | 岡崎 英一 | 地域課題を科学的・理論的に探求するために必要な基礎知識として、統計処理を身につける必要がある。本授業では、表計算ソフトを利用することによって、統計処理・データ分析の基本的能力を身につけ、自ら統計処理・データ分析をおこなうための基本的な能力を身につけ、今後必要になる地域課題探求のための諸授業の基礎的な能力を身につけさせることを目標とする。 | 本授業では、表計算ソフトを利用することによって、統計処理・データ分析の基本的能力を身につけ、自ら統計処理・データ分析をおこなうための基礎的な能力を身につけ、今後必要になる地域課題探求のための諸授業の基礎的な能力を身につけさせることを目標とする。そこで、授業を通じて①講義・作業を通じて、統計処理の基礎的な知識を身につける。②授業内の演習等を通じて、統計処理の作業能力を向上させる。③統計処理の基礎的な知識を身につける。④統計処理の基礎的な知識を身につける。⑤統計処理の基礎的な知識を身につける。⑥統計処理の基礎的な知識を身につける。⑦統計処理の基礎的な知識を身につける。⑧統計処理の基礎的な知識を身につける。⑨統計処理の基礎的な知識を身につける。⑩統計処理の基礎的な知識を身につける。 | | ◎ | | |
| 28273 | スキルアップ科目 | データと情報処理 | 井上 博行 | コンピュータの仕組みを理解し、コンピュータで扱うデータの扱い方を学ぶ。また、ネットワーク上のデータの活用方法を学ぶ。また、データの統計処理の基礎的な方法をコンピュータを用いて身に付ける。 | (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、様々な場面でコンピュータを応用できる知識を身につける。 (2) 統計データなどをコンピュータで扱うことができ、表にまとめる方法やグラフ化等の基本的なことを身につける。 (3) ネットワーク上に存在するデータなどについて取り扱う能力を身につける。 | (2)△(3)△ | (1)◎(2)◎(3)◎ | (1)○(2)○(3)○ | (3)△ |
| 28281 | スキルアップ科目 | 民法Ⅰ(総則) | 生駒 俊英 | 民法1(総則)は、民法第1編総則を指す。民法総則は、主に民法2(財産法)における物権、債権に共通するルールを定めたものである。講義では、例をあげつつ興味を持てるような授業をこころがけ、主体的に物事を考えられるようにしたい。 | 民法の枠組みを理解し、我々の生活とどのように関連しているかを理解できるようにする。 | | △ | ◎ | ◎ |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | | |
|-------|----------|-----------------|--------|--|---|--|--------------------------|--------------|--------------------------|-------------------------------|
| | | | | | | ◎=DP達成のために特に重要な事項、○=DP達成のために重要な事項、△=DP達成のために望ましい事項 | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| 28282 | スキルアップ科目 | 民法Ⅱ(財産法) | 生駒 俊英 | 民法2(財産法)は、民法第2編債権、第3編債権を内容として含んでおり、我々が生活する上で最も身近な法律の一つであると考えられる。例えば、土地購入の際の所有権関係や、契約といった法律行為について規定している。講義では、例をあげつつ興味を持って授業をこなすことが、主体的に物事を考えられるようにしたい。 | 実際に生活していて、民法(財産法)との関わりを判断できるようになる事を目標とする。 | | | | ◎ | ◎ |
| 28283 | スキルアップ科目 | 民法Ⅲ(家族法) | 生駒 俊英 | 家族法は、民法第4編親族、第5編相続を内容として含んでおり、我々が生活する上で最も身近な法律の一つであると考えられる。例えば、親子関係や、婚姻の際に必要な要件等に関する事項を規定している。講義では、例をあげつつ興味を持って授業をこなすことが、主体的に物事を考えられるようにしたい。 | 実際に生活していて、民法(家族法)との関わりを判断できるようになる事を目標とする。 | | | | ◎ | ◎ |
| 28284 | スキルアップ科目 | 刑法 | 生駒 俊英 | 刑法とは犯罪と刑罰について定めた法のことをいう。この授業では、まず、刑罰制度の意義とそれを科すための手続(刑事政策及び刑事手続法)について簡単にみながら、犯罪の成立要件(一般に「刑法」という法律科目で講義されるのはこの部分である。)を見ていくことになる。講義の中心的内容は刑法解釈論となるが、そのような作業が、現実社会においてどのような意味を持つのかについても、同時に意識していくことになる。 | 1. 犯罪と刑罰について、法的観点を変えて考察することができる。 2. 犯罪がどのような場合に成立し、どのような場合に成立しないかを法的に検討する具体的手順がイメージできる。 | | | | ◎ | ◎ |
| 28285 | スキルアップ科目 | 経済理論基礎Ⅰ(ミクロ経済学) | 飯田 健志 | 本講義では、消費者行動や企業行動の理論を通じて、経済学の基本的な考え方について解説します。経済学は、人々の生活を豊かにするための学問であり、限りある貴重な資源をいかにしてムダなく配分するか、という問題を考えます。このとき「市場」というものが重要な役割を果たします。講義の主な目標は、「完全競争市場は、効率的な(ムダのない)資源配分を実現する」という市場の役割について、理論的な背景を踏まえた上で理解することです。 | 本講義を通じて、 1)ミクロ経済学の基礎理論を身に付けること。 2)市場の役割について理解し、身近な経済問題に関して、基礎理論に基づいて議論できるようになること、 を目標とします。 | (1)○ (2)○ | (1)○ (2)○ | (1)◎ (2)◎ | (1)◎ (2)◎ | |
| 28286 | スキルアップ科目 | 経済理論基礎Ⅱ(マクロ経済学) | 飯田 健志 | マクロ経済学は、経済全体の動きに着目し、なぜ景気が良くなったり悪くなったりするのか、なぜ物価は変化するか、豊かな国がある一方で貧困に喘ぐ国があるのはなぜか、といった疑問を明らかにしようとする学問です。本講義では、これらの疑問に答えるため、国内総生産、雇用率、物価などのマクロ経済変数の決定要因について理解することで、国民生活を安定化させたり向上させたりするための財政政策や金融政策についても議論できるようになります。 | 本講義を通じて、 1)マクロ経済学の基礎理論(マクロ経済変数の決定要因)を理解すること。 2)マクロ経済学の基礎理論を用いて、国民生活を安定化させたり向上させたりするための財政政策や金融政策について議論できるようになること、 を目標とします。 | (1)○ (2)○ | (1)○ (2)○ | (1)◎ (2)◎ | (1)◎ (2)◎ | |
| 28287 | スキルアップ科目 | 簿記論 | 岡崎 英一 | 地域の経済や経営問題に関する課題を探究するにあたり、商業簿記の知識は不可欠である。本授業では、商業簿記の原理及びその処理方法について基本的な知識を身につけた上で、一定の条件下で財務諸表の作成が可能になる能力を身につけさせることを目標としている。 | ①講義・作業を通じて、商業簿記の基礎的な知識を身につける。 ②授業内の演習等を通じて、初歩的な財務諸表の作成能力を身につける。 | | | | ◎ | ○ |
| 28300 | 地域分析系 | 社会学概論 | 伊藤 勇 | 調査票を用いた社会調査の方法や実際について、調査テーマ設定から報告書作成までの各段階に即して学ぶ。合わせて、社会学における経験的研究の意義や位置を理解する。 | 調査票を用いた社会調査の方法や実際を学び、他者が行った調査結果を批判的に見ることができるようになるとともに、自分でも簡単な調査票を作ることができるようになる。 | ○ | ○ | ◎ | | △ |
| 28301 | 地域分析系 | 家族社会学 | 高田 洋子 | 学生が、これからの個人の生き方、家族や家族を支える社会のあり方について考えることができる。 | 自分の人生や家族について、社会における家族について考えを深めることができる。 | ◎ | | ◎ | | ○ |
| 28302 | 地域分析系 | 地域社会学 | 伊藤 勇 | 現代日本の農村に関する社会学的研究を紹介・解説し、農村という地域社会に対する基本的視点を獲得する。前半では、「家」と「村」という基礎概念を中心に社会学における農村研究の視角を、後半では、現代農村の変容と課題を講じる。本科目は地域を志向した科目である。 | 農村社会学の基本視角を理解するとともに、現代の農業・農村問題について基礎的理解を得る。 | ◎ | △ | ◎ | | ◎ |
| 28303 | 地域分析系 | 地域と福祉 | 高田 洋子 | 現代社会にある様々な生活課題について考える。私たちの生活を相互にあるいは社会的に支えるための理念と課題を検討する。地域科学課程のCP2、DP3に関連する。 | 現代社会にある様々な生活課題について理解する。私たちの生活を相互にあるいは社会的に支えるための理念と課題を理解する。 | ◎ | ○ | ◎ | | ○ |
| 28304 | 地域分析系 | 地域生活研究 | 伊藤 勇 | 地域社会における人びとの生活・行動・意識の解明に、質的研究法をどのように活用できるかを講じる。受講生によるインタビューの実地練習も行う。質的研究法の学習としては、調査技法としては質的インタビュー(主に半構造化インタビュー)。分析技法としてはライフヒストリー分析について詳しく講じ、基礎的な理解を深めることを目指す。本科目は地域を志向した科目である。 | 地域社会における人びとの生活・行動・意識の解明への質的調査法の活用について理解を得るとともに、自分でも質的インタビューなどを実施できるようになる。 | ◎ | ◎ | ○ | | ◎ |
| 28310 | 地域分析系 | 情報処理システム | 井上 博行 | 情報システムを学ぶ上で基本となるプログラミングの基礎を理解する。具体的には、○言語を用いてプログラミング手法を身につける。また、情報処理システムについて理解する。 | (1)情報システムを学ぶ上で基本となるプログラミングの基礎を理解したうえで、簡単なプログラミングを行える。○言語の基本を理解する。 (2)情報システムについて理解を深める。 | | (1)○(2)△ | (1)◎(2)◎ | | |
| 28311 | 地域分析系 | データベース | 井上 博行 | リレーショナルデータベースを中心にデータベースの基本的な理論や構築方法について理解する。また、データベース言語SQLの操作やデータベースソフトを使い、データベースを扱いについて理解する。そして、実際にデータベースを作成する。 | (1)リレーショナルデータベースを中心にデータベースの基本的な理論や構築方法について理解し、データベースを作成、取り扱うための基本的な能力を身につける。 (2)データベース言語SQLの実習やデータベースソフトウェアの利用を通して、実際のデータベースの操作や情報の検索方法のスキルを身につける。 (3)実データをデータベース化する能力を身に付ける。 | (3)○ | (1)△(2)△(3)○ | (1)○(2)○(3)◎ | | (3)△ |
| 28312 | 地域分析系 | 地域情報システム | 井上 博行 | 情報システムについて理解し、その利用や構築について学ぶ。また、地域などで発生する情報やデータを分析する手法や、政策の意思決定手法などを理解する。そして、地域の情報などをインターネットなどの発信法などについて学ぶ。 | (1)情報システムと、その利用や構築についての理解を深める。 (2)地域などで発生する情報を分析する手法や、政策の意思決定手法などを活用する能力を身につける。 (3)地域の情報などをインターネットなどの発信法する方法を身につける。 | (2)△ | (2)◎(3)◎ | (1)○(2)◎(3)◎ | | (3)△ |
| 28313 | 地域分析系 | 統計基礎 | 松本 智恵子 | 実践的課題解決力を身につけるために、統計的データをまとめ、分析するために必要な、基礎的な統計的知識の習得を目指す。 | 実践的課題解決力を身につけるために、「統計的思考力」を身につける。 | | ○ | ◎ | | △ |
| 28314 | 地域分析系 | 多変量解析 | 松本 智恵子 | 実践的課題解決力を身につけるために、基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを理解する。 | 多次元データを分析し、実践的課題解決力を身につけるために、コンピュータの『中』でどのような分析が行われて、結果が出てくるのかをきちんと理解してください。 | | ○ | ◎ | | △ |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|-----------|----------------------|-------|--|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項 | | | |
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| | | | | | | 一定の地理的空間において教育、文化、政治、経済、環境等の様々な要素が絡み合った複合的システムとして捉えられる「地域」について、その国内外の具体例が持っている特性と課題を解明し、実践的な活動を通して地域社会の発展や文化の創造に貢献することに高い関心を持ち、そのような貢献に向けて積極的に取り組む意欲を有する。 | 外国語、調査・データ分析、行政運営等に関する基礎的実践的なスキルを有し、適切な情報収集・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を用いてチームワークの中でリーダーシップを発揮しつつ課題の解決に取り組むことができる。 | 【地域分析系】 地理学、社会学、生活経営学、情報技術、統計学等の専門知識を有し、社会調査法や統計分析を活用して地域社会や住民生活の諸課題を解明できる。 【公共政策系】 法学、政治学、経営学等の専門知識を有し、地域政策の立案・実行や地域社会あるいは企業組織等の合理的・効果的運営に寄与できる基礎的能力を有する。 【環境マネジメント系】 環境マネジメント、生物学、環境科学等の専門知識を有し、様々な環境問題を理解する能力を持つ。 【生涯学習系】 社会教育学、博物館学、芸術学、心理学、生理学、運動学等の専門知識を有し、市民の生涯学習の企画・運営および支援に寄与することができる。 【国際文化系】 英米文化、ドイツ文化、フランス文化、中国文化等の専門知識を有し、複眼的視座から多様な価値観に根差した地域の文化的特性を理解することができる。 【言語コミュニケーション系】 英語、中国語を中心に言語やコミュニケーション等の専門知識を有し、英語、中国語の実践的運用能力を用いて、各地域の特性の解明や多文化共生社会に寄与することができる。 | 多様な地域社会や文化のあり方について理解し、善悪の得難い課題にも専門的知識・能力を生かして取り組むことができる。また、それを通じて地域間・文化間の共生や自治の実現等に貢献できる。 |
| 28320 | 公共政策系 | 法学概論 | 生駒 俊英 | 何故、法(法律)が必要なのか?法(法律)の役割とは?といった抽象的なものから始め、最終的に具体的な法律について学び、法的なものの考え方を身につけてもらいたい。 最初に、法律の基礎知識として、法律とはどのようなものか、現在の日本の法体系、裁判員制度について触れていく。その都度、「裁判員制度」といった現在のトピックについても触れていきたい。一般的・抽象的な議論はできるだけ少なくし、身近な問題を取り上げ、分りやすく生きた法律学を学んでもらいたい。 | 実際に生活していて、法との関わりを判断できるようになる事を目標とする。 | ○ | | ◎ | ○ |
| 28325 | 公共政策系 | 会社法 | 生駒 俊英 | 本講義の主たる内容は、株式会社の管理や運営(ガバナンス)に関する制度の枠組みを説明し、そこに潜む法的な問題とその取扱いを概説するものです。 株式や社債といった株式会社の資金調達(ファイナンス)に関しては、時間的な制約もあるため、必要限りで説明する形とします。 | 本講義における学生の目標は、以下の3点とします。 1.株式会社の経営・管理に関する会社法の制度的枠組みを理解すること。 2.会社法の個別条文の解釈論的な問題が何かを理解して、その問題に関する学説や裁判所の立場を理解すること。 3.債権者に潜む会社法的な問題をみずから抽出できる能力を涵養すること。 | | | 1◎ 2◎ | 3◎ |
| 28327 | 公共政策系 | 政治学概論 | 横井 正信 | 日本国憲法の下での国会と内閣は、議院内閣制の典型とされるイギリスや、大統領制と三権分立の徹底を基礎としたアメリカと比べて、期待される機能を十分な機能を果たしていないと批判されてきた。しかし、実際には、統治機構の中で立法府と行政府が果たしている機能と役割にはそれぞれの国の歴史や文化を背景とした差異があり、両者の間の関係も必ずしも同一ではない。 本講義では、比較政治制度論的視点から主要先進諸国の立法府と行政府の機能をめぐる様々な議論を紹介し、そのような議論の中で日本の立法府と行政府にどのような特徴と問題点があるかとされてきたのかを、両者の関係に注目しつつ概説する。 | 日本を含む先進諸国の統治機構の基本的な原理及び構造と実際の機能過程を理解した上で、現代日本の統治機構の特徴と問題点に関する基本的知識を修得することを目標とする。 | ○ | | ○ | |
| 28328 | 公共政策系 | 国際政治学 | 横井 正信 | 1951年にサンフランシスコ講和条約と同様に締結され、1960年に改定された日米安全保障条約は第二次世界大戦後の日米関係及び日本の外交・安全保障政策の根幹をなしてきた。しかし、他方で日米関係を含む日本を取り巻く現在の国際関係は日米安全保障条約が締結された当時とは大きく異なるものとなっている。本講義では、現在もなお日本の外交・安全保障政策の基本的構成要素となっている日米安保体制の形成とその後の変容の歴史をたどることを通じて、現代の日本外交をめぐる基本的諸問題に対する理解を深めることを目標としている。 | 第二次世界大戦後の日本の外交・安全保障政策史を学習することを通して、現代日本の外交・安全保障政策規定している諸要素に関する基本的理解と知識を修得することを目標とする。 | ○ | | ○ | |
| 28329 | 公共政策系 | 政治行動論 | 横井 正信 | 民主主義的な決定の基本原則は多数決であるが、実際には多数決には様々な理論的矛盾が存在することが知られている。本講義では、集合的決定論から得られる知見を手がかりに、民主主義の基本的前提となっている多数決をめぐる様々な理論的諸問題を考察することを通して、政治的決定をめぐる有権者や政治家の行動と政治参加に関する理論的な基礎知識を修得することを目標とする。 | 多数決の様々な方法とモデルを学習することを通して「公正な決定」を実現する困難さを理解した上で、民主主義的な決定方法とそこに至るプロセスを考えるための基礎的な理論的知識を修得することを目標とする。 | | | ○ | △ |
| 28331 | 公共政策系 | 公共政策論 | 飯田 健志 | 本講義の目標は、(1)市場に任せておいても望ましい経済状態(バレート最適)が実現しない、という市場の失敗および、市場の失敗が発生した場合の政府の役割について理解すること。 (2)複数の意思決定者が駆け引きをおこなう状況を分析するゲーム理論の考え方を理解すること。です。市場の失敗については、公共財や環境問題をとりあげ、ミクロ経済学の基礎理論を用いて、政府の役割について理解を深めます。 | 本講義を通じて、 1)市場の役割、市場の失敗、および政府の役割について理解すること。 2)ゲーム理論の考え方について理解すること。 3)身近な経済問題について、講義で学んだ基礎理論を用いて議論できるようになることを目標とします。 | (1)○ (2)○ | (1)○ (2)○ | (1)◎ (2)◎ | (1)◎ (2)◎ |
| 28332 | 公共政策系 | 経済政策論 | 飯田 健志 | 本講義では、貿易政策と競争政策について解説をおこないます。貿易政策では、自由貿易のメリット、保護貿易政策が支持される理由、企業がダンピング(海外で不当に低い価格で商品販売することをおこなう理由)について考えます。また、貿易と環境問題との関係についても解説します。競争政策では、企業の価格差別戦略(例:同じ映画を見るのでも学生と大人では料金が違う)を中心に、独占禁止法の考え方や正当性について解説します。 本講義の目標は、経済学の基礎理論に基づいて貿易政策、競争政策、そして身近な経済問題について議論できるようになることです。 | 本講義を通じて、 1)経済学の考え方を理解すること。 2)経済学の考え方に基づいて身近な経済問題について議論できるようになることを目標とします。 | (1)○ (2)○ | (1)○ (2)○ | (1)◎ (2)◎ | (1)◎ (2)◎ |
| 28336 | 公共政策系 | 会計学Ⅰ(資産会計論) | 岡崎 英一 | 講義を通じて、制度会計の基本的な知識を身につけるとともに、現在の制度会計が抱える問題点を理解し、今後、卒業研究等で取り上げるべきテーマ等についても自ら探求できるようにする。 | ①講義・作業を通じて、制度会計の基礎的な知識を身につける。 ②授業内の講義等を通じて、卒業研究にふさわしい内容を探求する力を身につける。 | | ○ | ◎ | |
| 28337 | 公共政策系 | 会計学Ⅱ(負債・資本会計論、特殊会計論) | 岡崎 英一 | 講義を通じて、制度会計の基本的な知識を身につけるとともに、現在の制度会計が抱える問題点を理解し、今後、卒業研究等で取り上げるべきテーマ等についても自ら探求できるようにする。 | ①講義・作業を通じて、制度会計の基礎的な知識を身につける。 ②授業内の講義等を通じて、卒業研究にふさわしい内容を探求する力を身につけさせる。 | | ○ | ◎ | |
| 28338 | 公共政策系 | 経営情報処理論Ⅰ | 岡崎 英一 | 表計算ソフトおよび統計ソフトを利用することによって、経営情報の統計的な取り扱い方について理解し、自ら統計処理が可能になるようにする。 | ①講義・作業を通じて、経営情報に関する統計処理の基礎的な知識を身につける。 ②授業内の演習等を通じて、経営情報に関する統計処理の作業能力を向上させる。 | | ○ | ◎ | |
| 28339 | 公共政策系 | 経営情報処理論Ⅱ | 岡崎 英一 | ①表計算ソフトを用いて、経営計画の策定についての基本的な考え方を身につける。 ②表計算ソフトを用いて、与えられたデータから適切な経営データを作成する基本的な方法を身につける。 ③財務諸表等の企業情報を分析する基本的な方法を身につける。 ④表計算ソフトを用いて、線形計画法を用いた合理的な計画策定の基本的な方法を学習する。 ⑤表計算ソフトをもちいて、適切な資産選択の方法に関する基本的な考え方を学習する。 | ①講義・作業を通じて、表計算ソフトを用いて、経営情報の収集・作成方法、経営情報の分析方法、経営計画の立案方法等に関する基本的な知識・技術を身につける。 ②授業内の演習等を通じて、情報処理の作業能力を向上させる。 | | ○ | ◎ | |
| 28355 | 環境マネジメント系 | 生物環境論 | 保科 英人 | 自然界における生物は、大なり小なり周辺の環境に影響を受けながら生活している。なお、その環境が有機的環境であれば、生物から環境へと逆の影響も及ぼす。自然生態系の中で、生物が環境とどのような関係を持っているかを紹介する。 | 生物と環境との関係を理解する | | | ◎ | |
| 28356 | 環境マネジメント系 | 地域と生態系 | 保科 英人 | 本講義は、生態学の理論を、実社会に応用した事例につき、学ぶことを目的とする | 農業の現場が抱える問題を学ぶことを目的とする | | | ◎ | |
| 28357 | 環境マネジメント系 | 生物野外実習法 | 保科 英人 | 野外における動物調査の具体的手法及びその問題点の理解 | 野外における動物調査の具体的手法及びその問題点の理解 | | ○ | ◎ | |
| 28358 | 環境マネジメント系 | 多様性生物学 | 保科 英人 | 分類学の基礎の習得と、生物の多様性の理解 | 分類学の基礎の習得と、生物の多様性の理解 | | | ◎ | |
| 28359 | 環境マネジメント系 | 保全生物学実習 | 保科 英人 | 主にフィールドでの実習を行うことによる、生物調査の実体験 | 自然の生物に接することによる、自然への正しい理解を得ること | | | ◎ | |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|-----------|-----------------|--------------|--|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項 | 1. 国内外の地域の特長と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 |
| | | | | | | 一定の地理的空間において教育、文化、政治、経済、環境等の様々な要素が絡み合った複合的システムとして捉えられ「地域」について、その国内外の具体例が持つ特性と課題を解明し、実践的な活動を通して地域社会の発展や文化の創造に貢献することに高い関心を持ち、そのような貢献に向けて積極的に関与する意欲を有する。 | 外国語、調査・データ分析、行政運営等に関する基礎的実践的なスキルを有し、適切な情報収集・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を用いてチームワークの中でリーダーシップを発揮しつつ課題の解決に取り組むことができる。 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 【地域分析系】 地理学、社会学、生活経営学、情報技術、統計学等の専門知識を有し、社会調査法や統計分析を活用して地域社会や住民生活の諸問題を解明できる。 【公共政策系】 法学、政治学、経済学、経営学等の専門知識を有し、地域政策の立案・実行や地域社会あるいは企業組織等の合理的・効果的運営に寄与できる基礎的能力を有する。 【環境マネジメント系】 環境マネジメント、生物学、環境科学等の専門知識を有し、様々な環境問題を理解する能力を持つ。 【生涯学習系】 社会教育学、博物館学、芸術学、心理学、生理学、運動学等の専門知識を有し、市民の生涯学習の企画・運営および支援に寄与することができる。 【国際文化系】 英米文化、ドイツ文化、フランス文化、中国文化等の専門知識を有し、複眼的視点から多様な価値観に根拠した地域の文化的特性を理解することができる。 【言語コミュニケーション系】 英語、中国語を中心に言語やコミュニケーション等の専門知識を有し、英語、中国語の実践的運用能力を用いて、各地域の特性の解明や多文化共生社会に寄与することができる。 | 多様な地域社会や文化のあり方について理解し、答えの得ない課題にも専門的知識・能力を生かして取り組むことができる。また、それを通じて地域間・文化間の共生や自治の実現等に貢献できる。 |
| 28360 | 環境マネジメント系 | 環境生物学演習 | 保科 英人 | 地域や環境に関わる研究能力、自学自習能力を高めること。 | 授業の目標に記載しており、地域や環境に関わる研究能力を高めること。 | ○ | ○ | | |
| 28361 | 環境マネジメント系 | 環境実践業務研修Ⅰ | 保科 英人、三浦 麻 | 環境関係行政や企業での研修を踏むことにより、自分も適正や就職先として可能性を探る。 | 自分の適正や不足する能力を知ること。 | ○ | ○ | | |
| 28362 | 環境マネジメント系 | 環境実践業務研修Ⅱ | 保科 英人、三浦 麻 | 環境関係行政や企業での研修を踏むことにより、自分も適正や就職先として可能性を探る。 | 自分の適正や不足する能力を知ること。 | ○ | ○ | | |
| 28363 | 環境マネジメント系 | 地域環境野外実習 | 保科 英人、三浦 麻 | 講義で学んだ知見を野外で確認したり、逆に野外で観察した事例を講義や実験で再確認する。 | 野外での観察を行い、教室では知り得ない環境の本質について知見を深める。 | ○ | | | ○ |
| 28364 | 環境マネジメント系 | 環境マネジメント実習Ⅰ | 三浦 麻、保科 英人 | 環境保全活動を通して、その意義、計画性および管理能力を養う。また、グリーンカーテンの役割を科学的に捉える。データ収集による分析能力、各々の意見を他と共有し、ディスカッション能力および理解力をつける。最終的に活動報告書を作成することで、レポート作成能力を身に付ける。 | 環境保全活動の実践を通して、継続的に行う意義と重要性、環境に対する責任を理解できる。協力し合うことで、コミュニケーション力および積極性が身に付く。 | | ○ | ○ | |
| 28365 | 環境マネジメント系 | 環境マネジメント実習Ⅱ | 保科 英人、三浦 麻 | 環境保全のための技術をマスターする | 環境マネジメントの実践、環境保全のための技術を、実践を通してマスターする | | ○ | | ○ |
| 28370 | 地域分析系 | 地域分析演習Ⅰ(社会学) | 伊藤 勇 | 現代日本の農業・農村の諸問題に関する社会学的研究を学習・討議し、農業・農村問題について理解を深めるとともに、村落社会研究の方法と実際についても学ぶ。本科目は地域を志向した科目である。 | 現代日本の農業・農村問題について理解を深めるとともに、村落社会の調査研究論文を読みこなす読解力、学問的に討論・思考する力を身に付ける。 | ◎ | ○ | | ◎ |
| 28372 | 地域分析系 | 地域分析演習Ⅰ(生活経営学) | 高田 洋子 | 現代社会における生活上の諸課題を取りあげて、文献講義を行い、ゼミでの話し合い等によって考察検討を行う。取りあげる課題は毎年異なる。受講生の積極的参加が求められる。 | 生活上の諸課題について考えを深めるとともに、その課題解決について考えることができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| 28373 | 地域分析系 | 地域分析演習Ⅰ(情報統計分析) | 井上 博行、松本 智恵子 | 本演習では、実際の実習や演習を通して、今まで授業で学んできた情報技術や統計学の基礎的な方法論や理論を理解することを目的とする。また、地域情報系の研究をする上での基本的な視点を身に付け、基本的な地域情報の扱い方なども学ぶ。 | (1)実際の実習や演習を通して、統計学の基礎的な方法論や理論を理解する。 (2)実際の実習や演習を通して、情報技術の基礎的な方法論や理論を理解する。 (3)地域情報系の研究をする上での基本的な視点を身に付け、基本的な地域情報の扱い方を理解する。 | (3)△ | (1)○(2)△(3)◎ | | (1)◎(2)◎(3)◎ |
| 28374 | 地域分析系 | 地域分析演習Ⅱ(社会学) | 伊藤 勇 | 現代日本の農業・農村の諸問題に関する社会学的研究を学習・討議し、農業・農村問題について理解を深めるとともに、村落社会研究の方法と実際についても学ぶ。本科目は地域を志向した科目である。 | 現代日本の農業・農村問題について理解を深めるとともに、村落社会の調査研究論文を読みこなす読解力、学問的に討論・思考する力を身に付ける。 | ◎ | ○ | | ◎ |
| 28376 | 地域分析系 | 地域分析演習Ⅱ(生活経営学) | 高田 洋子 | 現代社会における生活上の諸課題を取りあげて、文献講義を行い、ゼミでの話し合い等によって考察検討を行う。取りあげる課題は毎年異なる。受講生の積極的参加が求められる。 | 生活上の諸課題について考えを深めるとともに、その課題解決について考えることができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| 28377 | 地域分析系 | 地域分析演習Ⅱ(情報統計分析) | 井上 博行、松本 智恵子 | 2年後期の演習Ⅱをさらに発展させる形で、情報技術や統計学の応用方法を身に付けることを目的とする。地域情報系の研究分野全てで役立つ情報技術やデータの扱い方なども学ぶ。 | (1)実際の実習や演習を通して、統計学の応用的な方法論や理論を理解する。 (2)実際の実習や演習を通して、情報技術の応用的な方法論や理論を理解する。 (3)地域情報系の研究をする上での総合的な視点を身に付け、地域情報を応用する能力を身に付ける。 | (3)△ | (1)○(2)△(3)◎ | | (1)◎(2)◎(3)◎ |
| 28380 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅰ(経営学) | 岡崎 英一 | 経営学諸分野に関する事項を自ら調査・学習することにより、経営学に関する基本的知識の習得を計るとともに、自ら調べた内容を報告・討議することにより、経営学の対する理解を深めるとともに、卒業研究にむけた基礎作りを行う。 | 経営学諸分野に関する事項を自ら調査・学習することにより、経営学に関する基本的知識の習得を計るとともに、自ら調べた内容を報告・討議することにより、経営学の対する理解を深めるとともに、卒業研究にむけた基礎作りを行うことが本授業の目的である。本授業を通じて、以下の能力を習得する。 ①経営学の基本的な知識を身に付ける ②今後の卒業研究に必要な知識を身に付け、また方向性について考える。 ③自ら問題を探し、それを探求するための基礎的な能力を身に付ける。 | | ○ | | ○ |
| 28382 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅰ(経済学B) | 飯田 健志 | 経済データを入手しグラフや表を作成することで、データの情報を読み取り、身近な経済問題や日本経済の動きについて考察できるようにすることを目標とします。 | 本講義を通じて、 1)経済データの入手先を把握すること 2)図表の作成の仕方を見えること 3)作成した図表からデータの情報を読み取ることができるようになることを目標とします。 | (1)○ (2)○ (3)○ | (1)◎ (2)◎ (3)◎ | | (1)◎ (2)◎ (3)◎ |
| 28384 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅰ(政治学) | 横井 正信 | 政治学に関する演習問題(主として政治学分野に関して公務員試験に出題される問題)に取り組むことにより、政治制度、政治史、政治思想・理論、政治過程、政治行動等、政治学の様々な領域の専門的文献を理解できる能力を身に付けることを目標とする。 | 政治学がさらにどのような諸領域に細分化されてきたかを把握し、それらの諸領域における基本的諸概念を理解・説明できるようになることを目標とする。 | | ○ | | ○ |
| 28385 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅱ(経営学) | 岡崎 英一 | 経営学諸分野に関する事項を自ら調査・学習することにより、経営学に関する基本的知識の習得を計るとともに、自ら調べた内容を報告・討議することにより、経営学の対する理解を深めるとともに、卒業研究にむけた基礎作りを行う。 | ①経営学の基本的な知識を身に付ける ②今後の卒業研究に必要な知識を身に付け、また方向性について考える。 | | ○ | | ○ |
| 28387 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅱ(経済学B) | 飯田 健志 | 経済データを入手しグラフや表を作成することで、データの情報を読み取り、身近な経済問題や日本経済の動きについて考察できるようにすることを目標とします。また、統計学の基礎知識を学ぶことで、公共政策演習よりも、より専門的な議論ができるようになることを目指します。 | 本講義を通じて、 1)経済データの入手先を把握すること 2)図表の作成の仕方を見えること 3)作成した図表からデータの情報を読み取ることができるようになることを目標とします。 | (1)○ (2)○ (3)○ | (1)◎ (2)◎ (3)◎ | | (1)◎ (2)◎ (3)◎ |
| 28389 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅱ(政治学) | 横井 正信 | 政治学に関する演習問題(主として政治学分野に関して公務員試験に出題される問題)に取り組むことにより、政治制度、政治史、政治思想・理論、政治過程、政治行動等、政治学の様々な領域の専門的文献を理解できる能力を身に付けることを目標とする。 | 政治学がさらにどのような諸領域に細分化されてきたかを把握し、それらの諸領域における基本的諸概念を理解・説明できるようになることを目標とする。 | | ○ | | ○ |
| 28390 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅲ(経営学) | 岡崎 英一 | 経営学諸分野に関する事項を自ら調査・学習することにより、経営学に関する基本的知識の習得を計るとともに、自ら調べた内容を報告・討議することにより、経営学の対する理解を深めるとともに、卒業研究にむけた基礎作りを行う。 | ①経営学の基本的な知識を身に付ける ②今後の卒業研究に必要な知識を身に付け、また方向性について考える。 | | ○ | | ○ |
| 28392 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅲ(経済学B) | 飯田 健志 | 卒業論文の作成に向けて、各自が関心のあるテーマに関して、先行研究の整理を行います。先行研究の整理を通じて、当該分野において「どのような課題が残されているのか」を把握することを目標とします。 | 関心のあるテーマに関して「これまでの研究成果、および残された課題を把握する」ことを目標とします。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| 28394 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅲ(政治学) | 横井 正信 | 政治学に関する基本的な英語文献を複数の学生に講読させることにより、専門分野に関する知識の修得の幅を広げるとともに、教員及び学生相互の質疑応答を通じて議論を行う力を身に付けることを目標とする。 | 他の専門科目の履修と連動させる形で政治学に関する基本的な英語文献の内容を理解する能力を修得し、専門分野に関する知識を深めることを目標とする。 | | ○ | | ○ |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|-------|---------------|-----------------------|--|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項 | | | |
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| | | | | | | 一定の地理的空間において教育、文化、政治、経済、環境等の様々な要素が絡み合った複合的システムとして捉えられ「地域」について、その国内外の具体例が持つ特性と課題を解明し、実践的な活動を通して地域社会の発展や文化の創造に貢献することに高い関心を持ち、そのような貢献に向けて積極的に関与する意欲を有する。 | 外国語、調査・データ分析、行政運営等に関する基礎的実践的なスキルを有し、適切な情報収集・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を用いてチームワークの中でリーダーシップを発揮しつつ課題の解決に取り組むことができる。 | 【地域分析系】 地理学、社会学、生活経営学、情報技術、統計学等の専門知識を有し、社会調査法や統計分析を活用して地域社会や住民生活の諸課題を解明できる。 【公共政策系】 法学、政治学、経済学・経営学等の専門知識を有し、地域政策の立案・実行や地域社会あるいは企業組織等の合理的・効果的運営に寄与できる基礎的能力を有する。 【環境マネジメント系】 環境マネジメント、生物学、環境科学等の専門知識を有し、様々な環境問題を理解する能力を持つ。 【生涯学習系】 社会教育学、博物館学、芸術学、心理学、生理学、運動学等の専門知識を有し、市民の生涯学習の企画・運営および支援に寄与することができる。 【国際文化系】 英米文化、ドイツ文化、フランス文化、中国文化等の専門知識を有し、複眼的視点から多様な価値観に根ざした地域の文化的特性を理解することができる。 【言語コミュニケーション系】 英語、中国語を中心に言語やコミュニケーション等の専門知識を有し、英語、中国語の実践的運用能力を用いて、各地域の特性の解明や多文化共生社会に寄与することができる。 | 多様な地域社会や文化のあり方について理解し、香えの得難い課題にも専門的知識・能力を生かして取り組むことができる。また、それを通じて地域間・文化間の共生や自治の実現等に貢献できる。 |
| 28395 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅳ(経営学) | 岡崎 英一 | 経営学諸分野に関する事項を自ら調査・学習することにより、経営学に関する基本的知識の習得を計るとともに、自ら調べた内容を報告・討論することにより、経営学に対する理解を深めるとともに、卒業研究にむけた基礎作りを行う。 | ①経営学の基本的な知識を身につける ②今後の卒業研究に必要な知識を身につけ、また方向性について考える。 | | | ○ | ○ |
| 28397 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅳ(経済学B) | 飯田 健志 | 卒業論文を執筆すること。 | 卒業論文を執筆すること。 | | ◎ | ◎ | ◎ |
| 28399 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅳ(政治学) | 横井 正信 | 政治学に関する基本的な英語文献を複数の学生に講読させることにより、専門分野に関する知識の修得の幅を広げるとともに、教員及び学生相互の質疑応答を通じて議論を行う力を身につけることを目標とする。 | 他の専門科目の履修と連動させる形で政治学に関する基本的な英語文献の内容を理解する能力を修得し、専門分野に関する知識を深めることを目標とする。 | | | ○ | |
| 28521 | 公共政策系 | 公共政策演習Ⅱ(法律学B) | 生駒 俊英 | 講義で理解した知識を利用して問題を解くことにより、より深い法的知識とする。 | 卒業論文作成に向けてのテーマの選択。 | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 28404 | 生涯学習系 | ライフスタイルと健康 | 戎 利光、梅澤 章男 | 現代人のライフスタイル(食習慣や運動習慣の乱れ・生活習慣の乱れ・精神的なストレスの蓄積・テクノストレスなど)が身体の健康や心の健康に及ぼす影響について、生理学的及び心理学的に論述する。 | (1)現代人のライフスタイルが健康に及ぼす影響を生理学的及び心理学的に理解する。 (2)学生自身が健康的な生活を実際に送るようにより自覚し実行する。 | | (2)◎ | (1)○ | |
| 28405 | 生涯学習系 | 生涯スポーツ論 | 澁谷 政子 | こどもの体力の低下、ストレス社会、生活習慣病、高齢化社会など現代社会の課題に対してスポーツの果たす役割は大きいものがある。そのスポーツをそれぞれのライフステージに合わせて、どう活用していくか個人の実践力が問われている。生涯スポーツの現状や問題点、あるいは国のスポーツ政策などについて学びながら、スポーツについて理解を深め、それぞれのライフステージに合わせた実践力を高める。 | ・新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用し、スポーツや教育、健康問題などに関心を持つ。 ・毎回の感想文に自分の考えをしっかりと述べる。 ・ディスカッション時には、相手の意見をしっかりと聞き自分の考えを述べる。 ・スポーツ社会学やスポーツマネジメント関連の本や論文を自ら探して読む。 | ○ | ○ | ◎ | |
| 28409 | 生涯学習系 | 博物館概論 | 東村 純子、秦 小麗 | 博物館の目的と機能、博物館法、歴史等の基礎知識を学び、生涯学習の推進、地域文化の継承や発信等、博物館の地域社会における役割について理解することを目的とする。博物館資料論と博物館経営論、さらに博物館実習につながる博物館学の基礎編である。 | (1)博物館学に関する基礎知識を習得し、地域の博物館の現状と課題、社会的役割について考える。 (2)地域の博物館のみならず、広く海外の博物館事情について学び、国際理解を深める。 | (1)◎(2)◎ | (2)○ | (1)◎(2)◎ | (1)○(2)○ |
| 28410 | 生涯学習系 | 博物館資料論 | 東村 純子、坂本 育男 | 博物館資料とは、博物館の目的を達成するための情報を提供する永久的なものである。本講義では博物館資料の収集、整理・保管、保存・修復、展示や研究活動等について体系的に理解することを目的とする。 | (1)博物館資料の収集、調査研究から活用まで各分野の資料の特性に即して理解する。 (2)特に地域の文化遺産として活用が望まれる考古学や民俗学の資料の取り扱いについて専門知識を習得する。 | (1)○(2)◎ | (2)○ | (1)◎(2)◎ | (1)○(2)○ |
| 28411 | 生涯学習系 | 博物館情報・経営論 | 東村 純子 | 博物館における管理・運営について、福井県内外の博物館の事例をもとに理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)に関する基礎的能力を養い、現状の課題について理解を深めることを目的とする。 | (1)地域の博物館における管理・運営について問題意識を高める。 (2)博物館を活動拠点とした地域文化マネジメントのあり方を考える。 | (1)◎(2)◎ | (2)○ | (1)◎(2)◎ | (1)○(2)○ |
| 28439 | 生涯学習系 | 博物館実習 | 東村 純子 | 「博物館法施行規則」第1条の大学において修得すべき博物館に関する科目の単位に基づき、博物館における実習を通じて学芸員の業務の理解を図ることを目的とする。 | (1)学外研修に参加し、福井県内外の博物館施設において実習を行う。 (2)地域の博物館で展示やワークショップを企画し、実践する。 (3)博物館での展示等の活動を分析・評価し、報告書を作成する。 | (1)◎(2)◎(3)◎ | (1)◎(2)◎(3)◎ | (1)◎(2)◎(3)◎ | (1)○(2)◎(3)◎ |
| 28414 | 生涯学習系 | 音楽史概論 | 澁谷 政子 | 西洋音楽史に関する基礎知識を習得し、それに基づいて各時代の音楽の特徴を理解することをめざします。時代区分にしたがって、それぞれの時代に属する楽曲や作曲家、音楽語法と美学、社会背景を把握し、音楽理論の観点および文化的観点から個々の楽曲にアプローチする態度を養います。 | 西欧芸術音楽の歴史的な展開について、音楽様式、作曲技法、各時代の音楽の特徴を流れを理解する。各時代の音楽の特徴を知覚してだけでなく実際の響きからも判別できるようにする。楽譜から音楽構造および音楽的意味を読み取る基礎的な能力を身につける。 | ○ | | ◎ | |
| 28415 | 生涯学習系 | 音楽理解の視点 | 澁谷 政子 | 音楽と人間、音楽と社会との関係は、時代・文化やコンテクストによって多様に変化する。この授業では、具体的な事例をまじえながら、音楽に対する学問的アプローチを紹介し、音楽学の対象と方法論を概観するとともに、音楽の役割や意義について広く論じる。 | 音楽学という学問分野の基本的視点を理解し、その対象と方法論を把握する。日常的に身近にある音楽を学問の対象として観察することを通して、音楽にかかわる現象や文化全般の背景を考察する視点を身につける。 | ○ | △ | ◎ | |
| 28416 | 生涯学習系 | 音楽文化論演習 | 澁谷 政子 | 現代社会において音楽や芸術がどのような機能と役割を果たしているか、社会的・文化的研究的アプローチから考察する。 | 音楽や芸術を社会の文脈のなかに位置づけて考察する態度を身につけ、文化にかかわる現象の背景を社会学的な観点にたって分析できるようにすること。 | ○ | ◎ | ◎ | △ |
| 28417 | 生涯学習系 | 世界音楽概論 | 澁谷 政子 | 日本を含む世界各地の伝統音楽を、楽器、唱法、音楽語法などの面から分析し、それぞれの音楽の特徴について考察します。また、世界音楽のありかたをとおして、生活に根づいた音楽、文化的アイデンティティとしての音楽、文化変容のなかの音楽など、音楽と人とのかかわりについて、広い視野から論じます。 | 世界の音楽地図を把握し、各地の音楽様式、響き、演奏スタイル、構造的特徴を理解すること。また、世界音楽をとおして音楽概念の枠組みを広げ、社会のなかで音楽が顕在的・潜在的に果たす役割について考察する視点を身につけること。職業演奏を通して雅楽特有の音楽語法を捉えること。 | ○ | | ◎ | |
| 28418 | 生涯学習系 | 芸術創作演習(美術) | 湊 七雄 | 作品制作をとおして、美術に関する知識を深める。 | 作品制作をとおして、基本的な絵画表現技法とその手段について理解する。それぞれ異なる創造的表現を成立させるために求められる表現技法を見つめる。 | | | ○ | ◎ |
| 28425 | 生涯学習系 | 人間健康科学研究Ⅰ | 戎 利光、岸 俊行 | 人間健康科学分野における生理学、心理学に関する実験を行い、実験による身体変化を論ずる。 | (1)生理学、心理学の分野における健康への効果について、実験を通して習得する。 (2)アクティブラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力、力の養うことを求めている。 | | (2)◎ | (1)○ | |
| 28426 | 生涯学習系 | 人間健康科学研究Ⅱ | 戎 利光、岸 俊行 | 人間健康科学分野における生理学、心理学に関する実験を行い、実験による身体変化を論ずる。 | (1)生理学、心理学の分野における健康への効果について、実験を通して習得する。 (2)アクティブラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力、力の養うことを求めている。 | | (2)◎ | (1)○ | |
| 28427 | 生涯学習系 | 人間健康科学研究Ⅲ | 戎 利光、岸 俊行 | 人間健康科学分野における生理学、心理学に関する実験を行い、実験による身体変化を論ずる。 | (1)生理学、心理学の分野における健康への効果について、実験を通して習得する。 (2)アクティブラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力、力の養うことを求めている。 | | (2)◎ | (1)○ | |
| 28428 | 生涯学習系 | 人間健康科学研究Ⅳ | 戎 利光、岸 俊行、梅澤 章男、田中 美史 | 人間健康科学分野における心理学、生理学、スポーツに関する実験を行い、実験による身体変化を論ずる。 | (1)心理学、生理学、スポーツの分野における健康への効果について、実験を通して習得する。 (2)アクティブラーニング型の授業として位置づけられており、受講生が①プレゼンテーション能力、②適切な情報収集、③分析能力、④コミュニケーション能力、力の養うことを求めている。 | | (2)◎ | (1)○ | |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|-------|-------------|-------------|--|--|--|--------------------------|-------------|--------------------------|
| | | | | | | ◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項 | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 |
| 28433 | 生涯学習系 | 健康の生理学 | 戎 利光 | 生理学概論(細胞のエネルギー源・細胞・神経細胞の伝達・身体のリズム)をはじめ、栄養の生理学(栄養素の働き・酵素の働き・骨・体脂肪)、運動の生理学(筋内・呼吸器機能・骨・体脂肪・血清脂質・糖代謝[インスリン感受性]・鉄と赤血球・体産調節・活性酸素・消化機能など)、ストレスの生理学(恒常性の維持[ホメオスタシス]・神経伝達物質・糖質コルチコイド・自律神経・アドレナリンとノルアドレナリン・発汗・血圧・免疫機能・体脂肪・血清脂質・内臓)などについて論述する。 | (1)生理学概論をはじめ、「栄養」「運動」「ストレス」の生理学について習得する。 | (1)○ | | (1)◎ | |
| 28434 | 生涯学習系 | 公衆衛生学 | 戎 利光 | 公衆衛生学序論をはじめ、栄養(栄養素の働き・生活習慣病・外食産業・エネルギー消費量・栄養所要量・活性酸素・ダイエットなど)、運動(生活習慣病・加齢[寿命]・日常生活活動量[エネルギー消費量]・体力・有酸素運動など)、ストレス(体脂肪[肥満や拒食]・自律神経失調・内臓[糖尿病や癌]・鬱病・自殺・過労死・テクノストレス・ストレス耐性・ストレス解消など)の公衆衛生学的内容について論述する。 | (1)公衆衛生学序論をはじめ、健康の三本柱といわれる「栄養」「運動」「休養(本講義ではストレスから疲れた心の休養)」の公衆衛生学的内容を習得する。 | (1)○ | | (1)◎ | |
| 28441 | 国際文化系 | イギリス言語文化論Ⅰ | 木原 泰紀 | 本年は、イギリスの歴史、及び文学史において重要な二つの時代、16世紀エリザベス朝と19世紀ヴィクトリア朝を取り上げ、それぞれの時代の文学、及び関連する様々な文化的・社会的様相を十分に理解することを目的とする。前者はシェイクスピア、後者はディケンズを中心に考察する。また、正確に英語文献を読み、理解することも合わせて、本講の目的とする。 | 設定したテーマ(エリザベス朝とヴィクトリア朝の社会と文学)の把握、使用した英文テキストの読解と理解が十分に行われることが目標となる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ |
| 28442 | 国際文化系 | イギリス言語文化論Ⅱ | 木原 泰紀 | イギリス文学に見られる様々な社会的諸相についての理解を深めることを目的とする。本年は、イギリスの社会と文化を語る上で欠くことができないエポックとしてロマン主義の時代(18世紀末から19世紀初頭)を取り上げ、フランス革命等が及ぼした革新の時代と革新の文学、すなわちロマン主義の文学を読み解いていく。具体的には、前半ではワーズワース等のイギリスロマン派の詩、後半ではメアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』を時代の特徴に照らし合わせながら読解する。また、英文テキストを的確に理解することも一つの目的である。 | 設定したテーマの把握(イギリスの文化、特にイギリスロマン主義とその時代)、および使用した英文の読解と理解を十分に行うことを学生の目標とする。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ |
| 28445 | 国際文化系 | 英米言語文化論 | 館 清隆 | 英語の前置詞は、われわれ日本人にはわからないことが多い。日本語には前置詞に対応するものとして助詞があるが前置詞と助詞が一対一対応しているわけではないからである。さらに、非常に簡単だと思えるin, on, atなども、よく調べてみると非常に難しい問題をはらんでいることがわかる。最近、前置詞の意味について新しい視点での研究が活発になり、新発見や発見がぞくぞくと見つかるようになってきたので、その一端をこの授業で考察してみたい。 | 英語前置詞の意味を理解するための理論的基礎を学習すると同時に実際の分析を体験する。 | | ○ | ◎ | |
| 28446 | 国際文化系 | ドイツの文芸Ⅰ | 磯崎 康太郎 | まずドイツ語で書かれた文学作品の鑑賞(分析、理解など)を行う。それに合わせて19世紀末から20世紀にかけてのドイツ文学を歴史の流れの中で史の流れの中で文芸思潮を把握する。また20世紀に生まれた文学理論を紹介し、鑑賞した作品と理論を結びつける文芸批評や文学研究を紹介し、「文学」について知見を深めることを目標とする。 | ドイツの文芸という領域での読書体験を深める。我々の生きている時代に100年前後先行する時代の文学作品を過去の歴史的遺産ととらえるのではなく、我々が生きる現在や未来にどのように関わっているかを考察、熟考し、新しい読みの力を磨く。 | ○ | | ◎ | |
| 28447 | 国際文化系 | ドイツの文芸Ⅱ | 磯崎 康太郎 | いかに物語を読み、分析し、深い理解に達するか、そのための物語理論入門。どのような物語理論があるかを学び、読書の際にそれらをどのように応用するか、その技術の習得。 | 小説の読み方の習得。 | ○ | | ◎ | |
| 28448 | 国際文化系 | ドイツの歴史と民俗Ⅰ | 磯崎 康太郎 | 日本人の学生にとっては、二年目以上のドイツ語の読解力養成を目標とします(ドイツ語必須)。また留学生にとっては、翻訳を通じて日本語能力を高めます(日本語必須)。どちらの場合でも、「ドイツ人の視点から見た日本文化」を共通テーマとして、異文化交流のあり方について、理解を深めます。 | ドイツ語の文章構造を理解し、複雑な文章も読むことができるようになることを目標とします。ドイツ語の文章を理解しやすい日本語に直すところをこころがけ、翻訳への第一歩を踏み出しましょう。ドイツと日本の異文化交流について理解を深め、多角的な視点を身につけます。 | | ◎ | ○ | |
| 28449 | 国際文化系 | ドイツの歴史と民俗Ⅱ | 磯崎 康太郎 | 日本人の学生にとっては、二年目以上のドイツ語の読解力養成を目標とします(ドイツ語必須)。また留学生にとっては、翻訳を通じて日本語能力を高めます(日本語必須)。どちらの場合でも、「ドイツ人の視点から見た日本文化」を共通テーマとして、異文化交流のあり方について、理解を深めます。 | ドイツ語の文章構造を理解し、複雑な文章も読むことができるようになることを目標とします。ドイツ語の文章を理解しやすい日本語に直すところをこころがけ、翻訳への第一歩を踏み出しましょう。ドイツと日本の異文化交流について理解を深め、多角的な視点を身につけます。 | | ◎ | ○ | |
| 28450 | 国際文化系 | ドイツ現代事情Ⅰ | 磯崎 康太郎 | 公害大国から環境立国となった現代ドイツの環境についての取り組みを概観しながら、そうした政策を支える考え方や環境に対する意識を検討します。多様なアプローチが可能な環境問題に対して、とりわけ人文科学の立場からの関与のあり方を考えます。 | 学生が、社会的・歴史的背景のなかでドイツの環境政策に対する理解を深め、それを支える精神についても考察し、自らの考えをまとめることができるようになることを目標とします。また日本の環境政策、環境意識との比較の視点を身につけることも期待されます。 | ○ | | ◎ | |
| 28451 | 国際文化系 | ドイツ現代事情Ⅱ | 磯崎 康太郎 | ヨーロッパの思想史の一端に触れながら、現在のメディア事情について検討します。インターネットが登場する1970年代以降、われわれの生活はその多くの部分をメディアの新しい技術に負っています。メディア抜きにして、もはや人間のあり方は考えられないと言われる現在、メディア論はすべての分野に共通する検討課題と言えるでしょう。個々のメディアの特性を知りながら、メディアがわれわれといかにかわり、いかにわれわれのあり方を規定しているのかについて理解を深めていきます。 | 学生が、歴史的・社会的背景のなかで欧米、とりわけドイツ語圏のメディア論に対する理解を深め、それを支える精神についても考察し、自らの考えをまとめることができるようになることを目標とします。また日本の発展状況との比較の視点を身につけることも期待されます。 | ○ | | ◎ | |
| 28452 | 国際文化系 | フランス言語文化講義Ⅰ | 松田 和之 | フランスの文学作品を原書で講義することで、フランス文学の奥深い魅力に触れながらフランス語の読解力を涵養する。本年度はジャック・プレヴェール(1900-1977)の詩を主たるテキストとして用いる。 | フランス語の読解力を身につけることがこの授業の主たる目標となるが、それにとどまらず、「芸術の国」フランスの文学や音楽の奥深い魅力、目と耳を通じてじっくり堪能して欲しい。 | ○ | | ◎ | ○ |
| 28453 | 国際文化系 | フランス言語文化講義Ⅱ | 松田 和之 | フランスの文学作品を原書で講義することで、フランス文学の奥深い魅力に触れながらフランス語の読解力を涵養する。 | フランス語の読解力とフランス文学に関する知識を身につける。辞書を引きながらフランス語の文献が読めるようになることを到達目標とした。 | ○ | | ◎ | ○ |
| 28454 | 国際文化系 | フランスの文芸 | 松田 和之、今井 祐子 | 【前半】(担当者: 今井祐子) 19世紀フランス文学、絵画、医学書、礼儀作法書などにみる「女性の身体」をめぐる表象を通して、近代フランス女性の身体に映しだされた歴史性や社会性を確認する。 【後半】(担当者: 松田和之) 「美女と野獣」の物語が、ディズニー映画の題材に取り上げられるなど、世界中で知られるようになる過程を検証しながら、フランスと日本の文芸について知見を広めたい。特に、ナチス占領下の時代を生きたフランスの作家や知識人たちの行動を通して、古今東西で議論が囁かれてきた文学(芸術)と政治のあるべき関係について考察を深めたいと考えている。 | 異なった二つのテーマを通じて、フランスの文芸に関する理解を深める。 | ○ | | ◎ | ○ |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|--------------|-------------|--------------|--|--|---|---|---|---|
| | | | | | | ◎=DP達成のために特に重要な事項、○=DP達成のために重要な事項、△=DP達成のために望ましい事項 | | | |
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| | | | | | | 一定の地理的空間において教育、文化、政治、経済、環境等の様々な要素が絡み合った複合的システムとして捉えられ「地域」について、その国内外的具体例が持つ特性と課題を説明し、実践的な活動を通して地域社会の発展や文化の創造に貢献することに高い関心を持ち、そのような貢献に向けて積極的に関与する意欲を有する。 | 外国語、調査・データ分析、行政運営等に関する基礎的実践的なスキルを有し、適切な情報収集・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を用いてチームワークの中でリーダーシップを発揮しつつ課題の解決に取り組むことができる。 | 【地域分析系】 地理学、社会学、生活経営学、情報技術、統計学等の専門知識を有し、社会調査法や統計分析を活用して地域社会や住民生活の諸課題を説明できる。 【公共政策系】 法学、政治学、経済学・経営学等の専門知識を有し、地域政策の立案・実行や地域社会あるいは企業組織等の合理的・効果的運営に寄与できる基礎的能力を有する。 【環境マネジメント系】 環境マネジメント、生物学、環境科学等の専門知識を有し、様々な環境問題を理解する能力を持つ。 【生涯学習系】 社会教育学、博物館学、芸術学、心理学、生理学、運動学等の専門知識を有し、市民の生涯学習の企画・運営および支援に寄与することができる。 【国際文化系】 英米文化、ドイツ文化、フランス文化、中国文化等の専門知識を有し、複眼的視点から多様な価値観に根差した地域の文化的特性を理解することができる。 【言語コミュニケーション系】 英語、中国語を中心に言語やコミュニケーション等の専門知識を有し、英語、中国語の実践的運用能力を用いて、各地域の特性の解明や多文化共生社会に寄与することができる。 | 多様な地域社会や文化のあり方について理解し、答えの得難い課題にも専門的知識・能力を生かして取り組むことができる。また、それを通じて地域間・文化間の共生や自治の実現等に貢献できる。 |
| 28455 | 国際文化系 | フランスの現代事情 | 今井 祐子 | ・平明なフランス語で書かれたテキストを読解できる人材を養成する。 ・現代フランス事情(出来事や文化的特徴)に理解のある人材を育成する。 | ・比較的簡潔な構文のフランス語で書かれた文章を読み、既習の文法事項に関して理解を深め、 ・フランス語の読解力を身につける。 ・日本、アメリカとも異なる、フランス特有の現代事情を学ぶ。 | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 28456 | 国際文化系 | フランス文学講読 | 松田 和之 | フランスの文学作品を題材に取り上げ、作者に関する解説を加えた上で、作品の冒頭箇所とその主要テーマに関わる場面を原書で熟読する。フランス文学の奥深い魅力に触れながらフランス語の読解力を涵養することが、この授業の目標となる。 | フランス語の読解力とフランス文学に関する知識を身につける。辞書を引きながらフランス語の文献が読めるようになることを到達目標としたい。 | ○ | | ◎ | ○ |
| 28457 | 国際文化系 | 日仏文化交流論 | 今井 祐子 | 日本固有と思われがちな工芸品もその発展は中国や朝鮮半島との交流によって導かれた部分が多い。この授業ではまず、中国や朝鮮半島の影響下で発展してきた日本工芸の歴史や、工芸品の材料や製作方法に関する基礎知識を学ぶ。次いで、16世紀から19世紀にかけて、美術工芸品を巡って日本とヨーロッパ(主にフランス)との間で展開された文化交流の軌跡を学ぶ。そうした学びを今後どう活かすかを探るべく、授業の終盤では、現代日本で製作されている工芸品の市場拡大や多文化に対応したもののづくりを展望するプレゼンテーション、ならびにディスカッションを行う。 | 1. 日本の美術工芸品に関する基礎知識を理解する。 2. 日本の美術工芸品のヨーロッパにおける受容とその変遷に関する歴史を理解する。 3. 目下、福井県内で製作されている工芸品について調べる。 4. クール・ジャヴンという現象を踏まえて、日本の工芸品の今後のあり方について考察する。 | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 28458 | 国際文化系 | ヨーロッパ文化理解 | 松田 和之 磯崎 康太郎 | フランスとドイツを例にして、ヨーロッパ文化への知見を広める。 | フランスとドイツを例にして、ヨーロッパ文化への知見を広める。 | ○ | | ◎ | ○ |
| 28459 | 国際文化系 | ヨーロッパ文化特論 I | 磯崎 康太郎 | 文化におけるシンボリズムへの理解の涵養。 | 断片的な事実の雑多な集積に終始するのではなく、文化現象のなかにみられる理念(イデア)を理解しようとする姿勢の涵養。 | ○ | | ◎ | |
| 28461 | 国際文化系 | 中国文化論 | 田村 容子 | この授業では、二十世紀の中国演劇を中心に扱う。演劇を通して中国と日本の文化交流の歴史や文化の比較を学び、最終的には「中国文化」について考える。とくに以下の問題について講義を行い、受講者には講義に関するレポート提出・討論を通して、自身の考えをまとめ、発表してもらう。 ①中国の近現代演劇「話劇」の成立・発展について。 ②中国と日本の舞台装置について。 ③戦時期のメディア・革命現代演劇・中国映画に見られる日本人像について。 ④中国と日本の女形をめぐる歴史的背景・発展史の相違点と共通点について。 | 二十世紀の中国演劇に見られる日本の影響や、二十世紀の中国演劇・映画に描かれる日本人像などのトピックを手がかりに、中国と日本の文化の相違点・共通点について考えることを目標とする。最終的には、そのような相違点・共通点がどのような背景のもとで生まれるのかについても、自身の考えを発表してもらう。 | | | ○ | ○ |
| 28462 | 国際文化系 | 中国の文学 | 田村 容子 | 台湾の文学は、中華圏に共通する伝統的思想を継承する一方、移民・被植民といった台湾の経た歴史の痕跡を色濃く反映している。この授業では、主として戦後台湾の文学を中心に扱う。とくに日本統治期の後、国民党政府により中国語が「国語」に制定され、原住民・本省人(福建系漢民族、客家系漢民族)・外省人(戦後大陸から移住した人々)といったエスニックグループの差異があらわれたこと、その後1987年に戒厳令が解除され、民主化・多元化する社会の中で、「台湾意識」が醸成されたことに注目し、「台湾意識」の内容について各時代の文学・映画作品から考える。 | 戦後台湾文学・映画の作品鑑賞・読解を通して、台湾文学史や中華圏の伝統的思想、また80年代以降の台湾社会の動向についての知識を身につける。一方で日本の文学とも比較し、台湾文学の特質と、その特質を形成することとなった背景を理解し、「台湾意識」について考える。 | | | ○ | ○ |
| 28464 | 国際文化系 | 現代中国語講読 I | 田村 容子 | 大学一年生で学習する中国語1・2の内容をふまえて、現代中国語で書かれた小説・エッセイ・論説文を独力で読めるようにする。 | ・現代中国語で書かれた小説・エッセイ・論説文などの文章を辞書を用いながら読み、正確な意味を日本語に翻訳できるようになること。 ・中国の社会状況についての知識を深めること。 | | | ◎ | ○ |
| 28465 | 国際文化系 | 現代中国語講読 II | 田村 容子 | 大学一年生で学習する中国語1・2の内容をふまえて、現代中国語で書かれた小説・エッセイ・論説文を独力で読めるようにする。 | ・現代中国語で書かれた小説・エッセイ・論説文などの文章を辞書を用いながら読み、正確な意味を日本語に翻訳できるようになること。 ・中国の社会状況についての知識を深めること。 | | | ◎ | ○ |
| 28466 | 国際文化系 | 古典中国語講読 I | 澤崎 久和 | 中国古典文学のうち、志怪小説・伝奇小説と呼ばれる小説作品について理解を深めるとともに、その読解に習熟することを目標とする。さらに、志怪・伝奇小説が後世の中国文学のみならず、わが国の文学にも及ぼした影響について検討する。 | 先人に親しまれてきた中国古典小説を取り上げ、これを読み解く力を養うとともに、当時の中国における人々の思想や感情、生活や人生について理解し、さらにこれらの作品が後世の詩文やわが国の文学にどのような影響を与えたのかについても知ることを目標とする。 | | ○ | ◎ | |
| 28467 | 国際文化系 | 古典中国語講読 II | 澤崎 久和 | 中国古典文学のうち、志怪小説・伝奇小説と呼ばれる小説作品について理解を深めるとともに、その読解に習熟することを目標とする。さらに、志怪・伝奇小説が後世の中国文学のみならず、わが国の文学にも及ぼした影響について検討する。 | 先人による注釈がほとんどない作品を取り上げることにより、中国古典小説を読み解く力を養うとともに、当時の中国における人々の思想や感情、生活や人生について理解し、さらにこれらの作品が後世の詩文やわが国の文学にどのような影響を与えたのかについても知ることを目標とする。 | | ○ | ◎ | |
| 28468 | 国際文化系 | 中国文化演習 | 田村 容子 | この授業では、1951年から1960年にかけての間に中華人民共和国で出版された「連環圖」と呼ばれる絵物語を精読する。授業は演習形式で行い、以下の目標を達成することを旨とする。 ・会話表現を含む連環圖の説明文を日本語に訳すという、高度な翻訳に挑戦する。 ・中国の絵物語に描かれた政策の変遷や、その文芸作品への影響について考える。 | 作品の読解を通して、中国現代文学についての知識を身につける。 | | | ◎ | ○ |
| 28469 | 国際文化系 | 中国文化特殊講義 | 永井 崇弘 | この授業では、アヘン戦争以後中国が本格的に西洋文化に接触し、それを受容していく上で重要な舞台となった都市である上海(租界地)についての理解を深める。 | 清末から民国時期にかけての中国社会や文化の学習・研究の基礎となる上海という都市について、西洋との接触という観点からその具体的理解を深める。また、中国語文献資料を精読することにより中国の発音、読解力の向上をはかります。 | △ | ○ | ◎ | |
| 28480 | 言語コミュニケーション系 | 日英対照言語学 | 皆島 博 | この授業では、日本語と英語の多義語について、認知言語学(認知意味論)と対照言語学の観点からみていきます。日英対照言語学、認知意味論、日英多義語分析に関する講義が終了次第、残りの回を受講生による日本語と英語の多義語分析の研究発表に充てます。 | (1)日英対照言語学の基礎を学ぶ (2)認知意味論の基本的な考え方を学ぶ (3)認知意味論の枠内での多義語の分析法について学ぶ (4)語彙レベルの日英語の類似点と相違点について学ぶ | | (1)○ (2)△ (3)△ (4)○ | (1)○(4)○ | |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|--------------|----------------|-------------------|--|--|---|--|--------------------------|-------------------------------|
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| | | | | | | ◎=DP達成のために特に重要な事項、○=DP達成のために重要な事項、△=DP達成のために望ましい事項 | | | |
| | | | | | | 【地域分析系】 地理学、社会学、生活経営学、情報技術、統計学等の専門知識を有し、社会調査法や統計分析を活用して地域社会や住民生活の諸課題を説明できる。 【公共政策系】 法学・政治学、経済学・経営学等の専門知識を有し、地域政策の立案・実行や地域社会あるいは企業組織等の合理的・効果的運営に寄与できる基礎的能力を有する。 【環境マネジメント系】 環境マネジメント、生物学、環境科学等の専門知識を有し、様々な環境問題を理解する能力を持つ。 【生涯学習系】 社会教育学、博物館学、芸術学、心理学、生理学、運動学等の専門知識を有し、市民の生涯学習の企画・運営および支援に寄与することができる。 【国際文化系】 英米文化、ドイツ文化、フランス文化、中国文化等の専門知識を有し、複数の視点から多様な価値観に根拠した地域の文化的特性を理解することができる。 【言語コミュニケーション系】 英語、中国語を中心に言語やコミュニケーション等の専門知識を有し、英語、中国語の実践的運用能力を用いて、各地域の特性の解明や多文化共生社会に寄与することができる。 | | | |
| 28481 | 言語コミュニケーション系 | 英語圏の言語と文化 | 皆島 博 | この授業では、イギリス、アメリカだけでなく、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドも含む、いわゆる英語圏諸国(English-speaking world)について、言語や文化をはじめとする様々な側面について学びます。 | (1)英語圏全般についての基礎知識を身に付ける (2)イギリスの言語と文化に関する基礎知識を身に付ける (3)アメリカの言語と文化に関する基礎知識を身に付ける (4)カナダの語と文化に関する基礎知識を身に付ける (5)オーストラリアの語と文化に関する基礎知識を身に付ける (6)ニュージーランドの語と文化に関する基礎知識を身に付ける | (1)◎ (2)○ (3)○ (4)○ (5)○ (6)○ | (1)◎ (2)○ (3)○ (4)○ (5)○ (6)○ | | |
| 28482 | 言語コミュニケーション系 | 現代英文法論 | 館 清隆 | 生成文法理論の枠組みを理解し、英語の個別的な現象の分析を行う。 | 言語理論の理解と、英語及び日本語の特定の現象の分析を行う。 | | ○ | ◎ | |
| 28487 | 言語コミュニケーション系 | ドイツの言語Ⅰ | 磯崎 康太郎 | 日本人の学生にとっては、二年目以上のドイツ語の読解力養成を目標とします(ドイツ語必須)。また留学生にとっては、翻訳を通じて日本語能力を高めます(日本語必須)。どちらの場合でも、「ドイツ人の視点から見た日本」を共通テーマとして、時事問題や異文化交流について、理解を深めます。 | 学生が、ドイツ語の文章構造を理解し、複雑な文章も読むことができるようになることを目標とします。ドイツ語の文章を理解しやすくなることを目指します。ドイツ語の文章を理解しやすくなることを目指します。ドイツ語の文章を理解しやすくなることを目指します。ドイツ語の文章を理解しやすくなることを目指します。 | ◎ | | ○ | |
| 28488 | 言語コミュニケーション系 | ドイツの言語Ⅱ | 磯崎 康太郎 | 日本人の学生にとっては、二年目以上のドイツ語の読解力養成を目標とします(ドイツ語必須)。また留学生にとっては、翻訳を通じて日本語能力を高めます(日本語必須)。どちらの場合でも、「ドイツ人の視点から見た日本」を共通テーマとして、時事問題や異文化交流について、理解を深めます。 | 学生が、ドイツ語の文章構造を理解し、複雑な文章も読むことができるようになることを目標とします。ドイツ語の文章を理解しやすくなることを目指します。ドイツ語の文章を理解しやすくなることを目指します。ドイツ語の文章を理解しやすくなることを目指します。ドイツ語の文章を理解しやすくなることを目指します。 | ◎ | | ○ | |
| 28489 | 言語コミュニケーション系 | 中国の言語 | 永井 崇弘 | 中国語を学習したり、研究したりするうえで必要な中国語に関する基礎知識を習得します。 | この授業の受講により、中国語学の基礎的な知識を修得するとともに、これまで学んだ中国語に対して理論づけを行います。これにより、学習した中国語に対してより深い理解を得るとともに、以降の中国語学習および研究に資するものとする。 | △ | ○ | ◎ | |
| 28490 | 言語コミュニケーション系 | 中国語音声理解 | 永井 崇弘 | この授業では、中国語1で学習した発音部分を強化しつつ、特に中国語のヒヤリング能力を養います。このヒヤリング能力養成の成否は今後の中国語能力向上に大きな影響を及ぼします。この授業を通じて自分の苦手な(間違えやすい)発音を知るとともに、その克服に努めて下さい。この他に基礎文法、翻訳の能力向上もめざします。中国語養成目標：中国語検定試験4級、漢語水平考試2級。 | 1段階：音節表を参考にしながら声調を正確に聞き取ることができる。 2段階：音節表を参考にしながら単音節を正確に聞き取りピンイン表記できる。 3段階：音節表を参考にしながら複音節を正確に聞き取りピンイン表記できる。 4段階：音声による中国語の意味を理解でき、音節表を参考にしながらその中国語を正確にピンインで記すことができる。 5段階：音声による中国語の意味を理解でき、音節表を参考しなくてもその中国語を正確にピンインで記すことができる。 | ◎ | | ○ | |
| 28491 | 言語コミュニケーション系 | 中国語音声表現Ⅰ | 永井 崇弘 | この授業で受講者は口頭による中国語の表現を習得します。会話表現に関連する300あまりの単語をマスターするとともに、発音の矯正も行ってより標準的な中国語の発音を身に着けます。この授業は中国語によって行われます。 | (1)ネイティブ教員による中国語の授業に慣れ親しむ。 (2)より標準的な中国語の発音を身につける。 (3)中国語の会話表現と関連する300語の単語をマスターする。 | ◎ | | ○ | |
| 28492 | 言語コミュニケーション系 | 中国語音声表現Ⅱ | 永井 崇弘 | この授業によって中国語の発音の向上を図り、正確な発音による会話ができるようになります。受講者は、教材にある生き生きとした会話表現を習得し、運用するとともに、中国語による会話に必要な語彙、語調、強調、停頓などのテクニックも習得します。これにより、より正確な中国語で口頭によるコミュニケーションが行えます。 | (1)ネイティブの中国語に慣れ親しむ。 (2)より実際の会話表現を身につける。 (3)自律的に自分の意思を平易な中国語で伝えることができるようになる。 | ◎ | | ○ | |
| 28493 | 言語コミュニケーション系 | 中国語文章表現Ⅰ | 田村 容子 | 大学一年生で学習する中国語1・2の内容をふまえて、簡単な中国語作文が独力でできるようになることを目指す。 | 大学一年生のときに学習した文法を復習し、それを活用して自分の力で単語を文章へと組み立てられるようになること。 | | | ◎ | ○ |
| 28494 | 言語コミュニケーション系 | 中国語文章表現Ⅱ | 永井 崇弘 | この授業はネイティブ教員によって中国語で行われます。これによって受講者は生きた中国語に慣れ親しみます。また、これまで学んだ初級レベルの中国語を基礎に、「自己紹介」、「予定」、「書置き」、「欠席届」、「電子メール」、「はがき」などで使用される文法を習得して、簡易な中国語を書く能力を身に着けます。 | (1)中国語の文法能力を向上させる。 (2)生活において必要な文章表現や文体を習得する。 (3)場面ごとに適切な文体を選択し、書面によって自己の意思を伝える。 | ◎ | | ○ | |
| 28495 | 言語コミュニケーション系 | 中国語文章表現Ⅲ | 永井 崇弘 | この授業はネイティブ教員によって中国語で行われます。受講者が既に習得した「聞く」、「話す」、「読む」という能力を基礎にして、旅行記や説明文、小論文、感想文、書簡文、調査報告文、評論文の各特徴を学び、作文の技術を習得するとともに、これらの文体で中国語の文章を書くことができるようになります。これによって更なる中国語運用能力の向上を図ります。 | (1)中国語の作文能力の向上。 (2)より複雑かつ実践的な中国語の文体および表現の習得。 (3)より複雑かつ実践的な場面において適切な文体および表現によって自己の意思を書面により伝える。 | ◎ | | ○ | |
| 28496 | 言語コミュニケーション系 | 応用中国語Ⅰ | 永井 崇弘 | ネイティブ教員による中国語による授業によって、生きた中国語により親しむとともに、これまで学習した「読む」「書く」「話す」「聞く」能力を有機的に結び付けて、総合的な中国語運用能力を身に着けます。 | (1)ネイティブの中国語に慣れ親しむ。 (2)「読む」「書く」「話す」「聞く」において、より実践的かつ複雑な表現を身につける。 (3)「読む」「書く」「話す」「聞く」を総合したコミュニケーションを自律的に実行する。 | ◎ | | ○ | |
| 28497 | 言語コミュニケーション系 | 応用中国語Ⅱ | 永井 崇弘 | 応用中国語Ⅰに続き、これまで学んだ「読む」「書く」「話す」「聞く」を有機的に結びつけて、更なる総合的な中国語運用能力を身に着けます。特に中国語の文章作成や口頭による自己表現に重点を置き、自律的に身に着けます。 | (1)ネイティブの中国語に慣れ親しむ。 (2)実際の生活と関係したテーマについて、自律的に中国語で考えて自己の考えを発信できる。 (3)「読む」「書く」「話す」「聞く」を総合したより複雑なコミュニケーションがとれる。 | ◎ | | ○ | |
| 28498 | 言語コミュニケーション系 | 中国語文法研究 | 永井 崇弘 | この授業を通じて中国語文法研究に必要な知識を習得します。また、原書を精読することにより中国語読解能力の向上、発音の矯正も行います。 | この授業を通して中国語文法を研究する知識と手掛かりを修得することができます。また、中国語を精読することにより、中国語の読解力の向上、発音の標準化を行うことができます。 | ○ | | ◎ | |
| 28501 | 言語コミュニケーション系 | 英語コミュニケーション総合Ⅲ | 館 清隆 | 6週間の語学研修を行うことで、英語を使うことに対する不安を和らげると共に積極的に英語でコミュニケーションをしようとする態度と英語学習への動機を高める。 | 6週間、英語のみを使用しながら生活することを目標とする。 | ◎ | | ○ | |
| 28513 | 関連専門科目 | 第四紀学 | 山本 博文 | 地球表層部の諸現象、特に現在進行している事象について、基本的な理解をする。 | 地球表層部の諸現象、特に現在進行している事象について理解することにより、自然災害の防災や地質環境についての基本を身に着ける。 | | | ◎ | |
| 28514 | 関連専門科目 | 基礎生物学 | 西沢 徹・大山 利夫 | 生物教育を担当するために必要な基礎知識を修得すること。 | 中学、高校等で生物関係の授業を担当するために必要な基礎知識を修得すること。 | ○ | | ◎ | △ |
| 28515 | 関連専門科目 | 基礎地学 | 山本 博文・藤井 純子・三好 雅也 | 地球科学に関する基礎知識を習得すること。 | 地球科学に関する基礎知識を習得することにより、身の回りで起こっている地質現象を理解できるようにする。 | | | ◎ | |

地域科学課程 カリキュラム・チェックリスト

| 授業コード | 科目区分 | 授業科目名 | 担当教員 | 授業の目標 | 学生の目標 | ディプロマ・ポリシー | | | |
|-------|-----------|-------------------|------------------|--|--|---|---|---|---|
| | | | | | | ◎＝DP達成のために特に重要な事項、○＝DP達成のために重要な事項、△＝DP達成のために望ましい事項 | | | |
| | | | | | | 1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲 | 2. 実践的課題解決力 | 3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得 | 4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力 |
| | | | | | | 一定の地理的空間において教育、文化、政治、経済、環境等の様々な要素が絡み合った複合的システムとして捉えられる「地域」について、その国内外的具体例が持っている特性と課題を説明し、実践的な活動を通して地域社会の発展や文化の創造に貢献することに高い関心を持ち、そのような貢献に向けて積極的に取り組む意欲を有する。 | 外国語、調査・データ分析、行政運営等に関する基礎的実践的なスキルを有し、適切な情報収集・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を用いてチームワークの中でリーダーシップを発揮しつつ課題の解決に取り組むことができる。 | 【地域分析系】 地理学、社会学、生活経営学、情報技術、統計学等の専門知識を有し、社会調査法や統計分析を活用して地域社会や住民生活の諸課題を説明できる。 【公共政策系】 法学、政治学、経済学・経営学等の専門知識を有し、地域政策の立案・実行や地域社会あるいは企業組織等の合理的・効果的運営に寄与できる基礎的能力を有する。 【環境マネジメント系】 環境マネジメント、生物学、環境科学等の専門知識を有し、様々な環境問題を理解する能力を持つ。 【生涯学習系】 社会教育学、博物館学、芸術学、心理学、生理学、運動学等の専門知識を有し、市民の生涯学習の企画・運営および支援に寄与することができる。 【国際文化系】 英米文化、ドイツ文化、フランス文化、中国文化等の専門知識を有し、複眼的視点から多様な価値観に根差した地域の文化的特性を理解することができる。 【言語コミュニケーション系】 英語、中国語を中心に言語やコミュニケーション等の専門知識を有し、英語、中国語の実践的運用能力を用いて、各地域の特性の解明や多文化共生社会に寄与することができる。 | 多様な地域社会や文化のあり方について理解し、答えの得難い課題にも専門的知識・能力を生かして取り組むことができる。また、それを通じて地域間・文化間の共生や自治の実現等に貢献できる。 |
| 28516 | 関連専門科目 | 環境化学 | 未定 | 近年、私たちの生活基盤である身近な地域から地球全体まで、大小様々な規模で環境問題が起こっている。これらの多くは、化学物質が関与した現象に基づいて起きたものであり、その実態把握・解決に際し、物質の化学的諸特性の理解は必須である。ここでは、化学物質の構造や性質、生成・循環・消滅過程、分析方法と分析データの捉え方、関連法律、化学物質のリスク論などを解説し、豊かな物質文明を享受している私たちの、化学物質との付き合い方について考える。 | (1) 私たちの生活基盤である身近な地域から地球全体まで、大小様々な規模で環境問題について考えることができる。 (2) 化学物質が関与した現象について、その実態把握・解決に際し必要となる物質の化学的諸特性を理解している。 | (1) ◎ (2) ○ | (2) ○ | (1) ○ (2) ◎ | (1) ○ |
| 28524 | 関連専門科目 | 絵画制作基礎 I | 湊 七雄 | 静物画の制作をとおして、油彩画の基礎を身につけるとともに、素材・絵画組成についての理解を深める。 | グリザイユやカマイユなど、油彩画の古典技法について理解を深める。 代表的な絵画下地・地塗りの方法について理解し、実際に白亜地を施す。 古典作品の模写をとおして、基本的な表現技法やその手順について理解する。 また、絵画組成についての理解も深める。 | | | ○ | ◎ |
| 28509 | 関連専門科目 | 心理統計・調査法 | 三橋 美典 | 心理学実験、教育評価、社会調査などにとつて必須であるデータの整理方法・処理方法について学ぶ。 | 基本的な統計手法の種類を知り、主要な手法については実際に使えること。また、エクセルの使い方を習熟し、自分で計算や図表作成等ができるようになること。 | | ○ | ◎ | |
| 28523 | 公共政策系 | 公共政策演習 I (法律学B) | 生駒 俊英 | 講義で理解した知識を利用して問題を解くことにより、より深い法的知識とする。 | 卒業論文作成に向けてのテーマの選択。 | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 28522 | 公共政策系 | 公共政策演習 III (法律学B) | 生駒 俊英 | 講義で理解した知識を利用して問題を解くことにより、より深い法的知識とする。 | 卒業論文作成に向けてのテーマの選択。 | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 28532 | 公共政策系 | 公共政策演習 IV (法律学B) | 生駒 俊英 | 講義で理解した知識を利用して問題を解くことにより、より深い法的知識とする。 | 卒業論文作成に向けてのテーマの選択。 | ○ | | ○ | ◎ |
| 28550 | 生涯学習系 | 博物館経営論 | 東村 純子 | 博物館における管理・運営について、福井県内外の博物館の事例をもとに理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)に関する基礎的能力を養い、現状の課題について理解を深めることを目的とする。 | (1) 地域の博物館における管理・運営について問題意識を高める。 (2) 博物館を活動拠点とした地域文化マネジメントのあり方を考える。 | (1) ◎ (2) ◎ | (2) ○ | (1) ◎ (2) ◎ | (1) ○ (2) ○ |
| 28551 | 生涯学習系 | 博物館教育論 | 濱口 由美 | 博物館における教育普及の意義や目的について探究するとともに、美術館や博物館を活用した教育活動を展開するために必要な実践力の育成を図る。 | (1) 博物館における教育実践の事例を持ち寄り、教育活動を展開するために必要な必要な知識や技能について検討することができる。 (2) 福井市美術館の展示を活かしたワークショップづくりを通して、教育活動を企画運営するための実践的なスキルを身に付ける。 (3) 実践報告の作成や話し合い活動を基に、博物館における教育普及の役割や意義を模索することができる。 | (1) ○ (2) ○ | (2) ◎ (3) ○ | (1) ○ (2) ◎ (3) ◎ | (2) ○ (3) ○ |
| 28552 | 生涯学習系 | 博物館展示論 | 宮崎 光二 坂本 太郎 湊 七雄 | 展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。 | 博物館資料の展示について、その理論や方法に関する知識・技術を習得する。また、実地研修を通して実践力を身につける。 | ○ | | ◎ | |
| 28554 | 生涯学習系 | 博物館資料保存論 | 湊 七雄 宮崎 光二 坂本 太郎 | 博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存して行くための知識を習得することを通して、資料の保存に関する基礎的能力を養う。 | 博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存して行くための知識を習得する。 資料の保存に関する基礎的能力を修得する。 | ○ | | ◎ | |
| 28650 | 特別プログラム科目 | 学校ーコミュニティ共生 | 伊藤 勇 岸俊行 田中 志敬 | 学校と地域・コミュニティとの連携について、実地調査も含めて、現実的な理解を得る。 | 学校と地域・コミュニティとの連携や共同の意義を理解し、みずからも実践的に関わっていくという態度を培う。 | ◎ | ○ | △ | ◎ |